

Ⅱ 平成21年(2009年)鉍工業指数の動向

1 概 況

(1) 生産動向 — 生産指数は大幅に低下 —

平成21年の生産指数(原指数)は、前年比▲23.6%低下の74.7となり、3年連続で低下した(表1、図1、統計表第1表)。

表1 鉱工業生産指数の推移

平成17年=100

	富 山			全 国		
	指 数	前年比 (%)	前期比 (%)	指 数	前年比 (%)	前期比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成17年	100.0	1.7	-	100.0	1.3	-
18年	101.2	1.2	-	104.5	4.5	-
19年	100.7	▲0.5	-	107.4	2.8	-
20年	97.8	▲2.9	-	103.8	▲3.4	-
21年	74.7	▲23.6	-	81.1	▲21.9	-
平成21年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	70.5	-	▲21.4	74.2	-	▲20.0
II 期	73.8	-	4.7	79.0	-	6.5
III 期	74.3	-	0.7	83.2	-	5.3
IV 期	79.9	-	7.5	88.1	-	5.9

注: 全国指数は「経済産業省 鉱工業指数」から転載

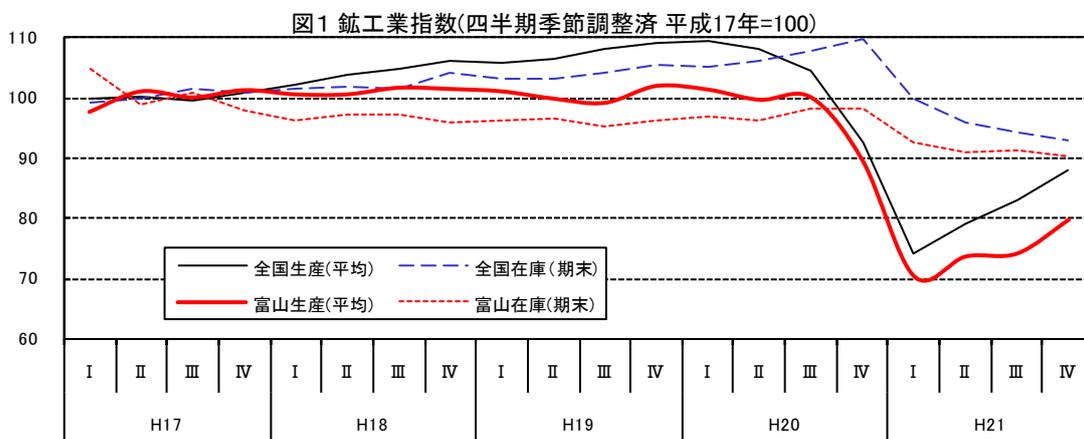


表2 生産指数(年平均)

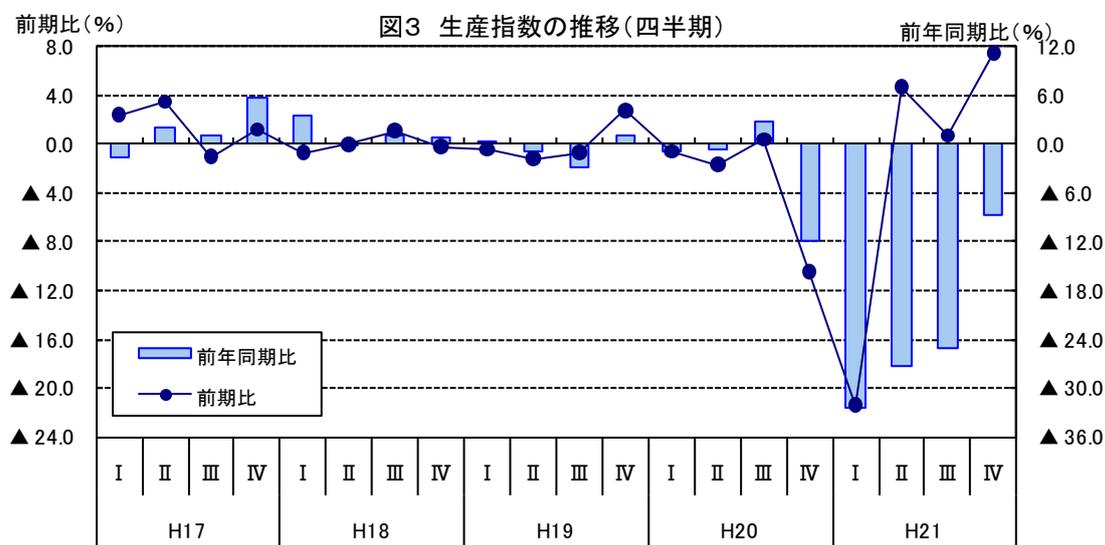
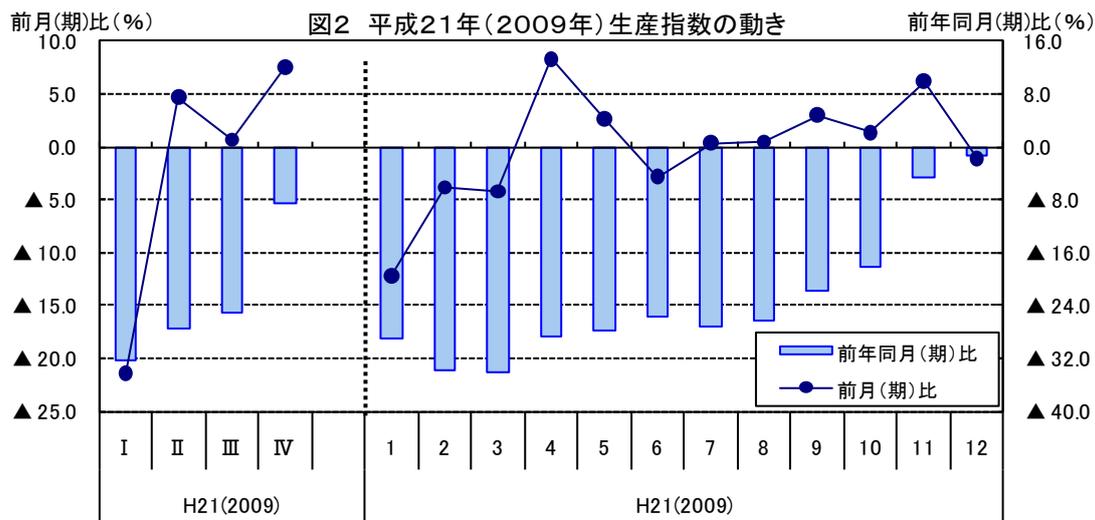
平成17年=100

	富山県	年平均指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%point)	全国(参考)
	ウェイト	20年	21年			ウェイト
鉱工業	10000.0	97.8	74.7	▲ 23.6	▲ 23.62	10000.0
製造工業	10000.0	97.8	74.7	▲ 23.6	▲ 23.62	9979.0
鉄鋼業	349.5	108.8	60.6	▲ 44.3	▲ 1.72	599.7
非鉄金属工業	443.7	93.9	72.4	▲ 22.9	▲ 0.98	211.7
金属製品工業	1134.9	91.8	77.5	▲ 15.6	▲ 1.66	566.8
一般機械工業	1225.6	95.6	48.7	▲ 49.1	▲ 5.88	1318.2
電気機械工業	2112.5	97.1	55.9	▲ 42.4	▲ 8.90	1840.0
輸送機械工業	342.4	86.4	67.9	▲ 21.4	▲ 0.65	1685.8
窯業・土石製品工業	236.9	89.1	73.5	▲ 17.5	▲ 0.38	293.0
化学工業	2034.0	113.5	113.5	0.0	0.00	1181.3
医薬品	1088.8	134.8	144.5	7.2	1.08	358.3
プラスチック製品工業	471.9	79.7	62.9	▲ 21.1	▲ 0.81	383.7
パルプ・紙・紙加工品工業	467.6	97.0	78.5	▲ 19.1	▲ 0.88	241.0
繊維工業	358.4	82.3	60.9	▲ 26.0	▲ 0.78	200.9
食料品工業	265.3	102.8	97.8	▲ 4.9	▲ 0.14	721.2
その他工業	557.3	91.6	76.9	▲ 16.0	▲ 0.84	533.9
(参考)						
産業総合(鉱工業、電力・ガス事業)	11108.5	98.5	75.2	▲ 23.7	▲ 26.47	10424.2
電力・ガス事業	1108.5	104.5	78.7	▲ 24.7	▲ 2.92	424.2

※ 寄与度 = $\frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$

平成 21 年の生産の動きを四半期別にみると、生産の前期比（季節調整済指数）は、I 期▲21.4%と平成 20 年IV期以降 2 期連続で低下したが、II 期 4.7%、III 期 0.7%、IV 期 7.5%と 3 期連続で上昇した。

また、前年同期比（原指数）は、I 期▲32.3%、II 期▲27.4%、III 期▲25.0%、IV 期▲8.6%と平成 20 年IV期以降 5 期連続で前年を下回った（図 1、図 2、図 3）。

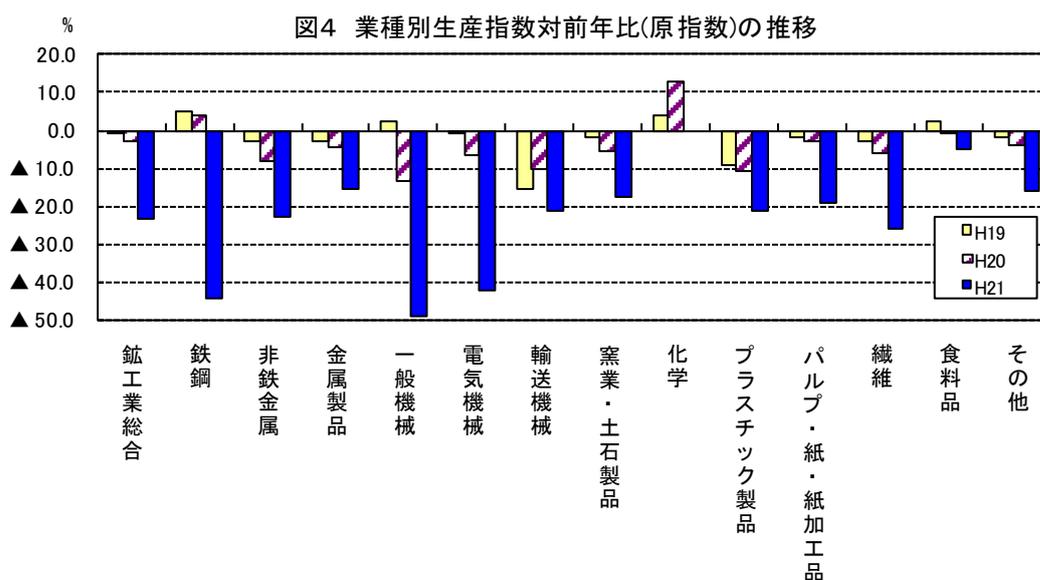


業種別にみると、製造工業 13 業種中、電気機械工業、一般機械工業など 12 業種が低下し、化学工業の 1 業種が横ばいとなった（表 3、図 4、図 5、図 6、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

生産指数（原指数）全体の低下に最も影響を与えたのは電気機械工業（寄与度▲8.90）で、集積回路などの減少により、前年比▲42.4%低下の 55.9 となった。ついで、一般機械工業（寄与度▲5.88）が、ロボット・産業機械などの減少により前年比▲49.1%低下の 48.7 となった（表 2、表 3、図 4、図 5、図 6）。

表3 業種別生産指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業 種	寄与度(%point)	主な増加品目	主な減少品目
低下業種	電気機械工業	▲ 8.90	—	集積回路
	一般機械工業	▲ 5.88	—	ロボット・産業機械
	鉄鋼業	▲ 1.72	—	鋳鍛鋼品類
	金属製品工業	▲ 1.66	軽金属板製品	金属製建具
	非鉄金属工業	▲ 0.98	—	アルミニウム圧延製品
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 0.88	—	紙
	その他工業	▲ 0.84	精密機械工業	その他製品工業
	プラスチック製品工業	▲ 0.81	フィルム・シート	機械器具部品
	繊維工業	▲ 0.78	—	化繊・紡績
	輸送機械工業	▲ 0.65	—	自動車部品
	窯業・土石製品工業	▲ 0.38	生コンクリート	炭素製品
	食料品工業	▲ 0.14	惣菜	飲料
横ばい業種	化学工業	0.00	医薬品	プラスチック樹脂



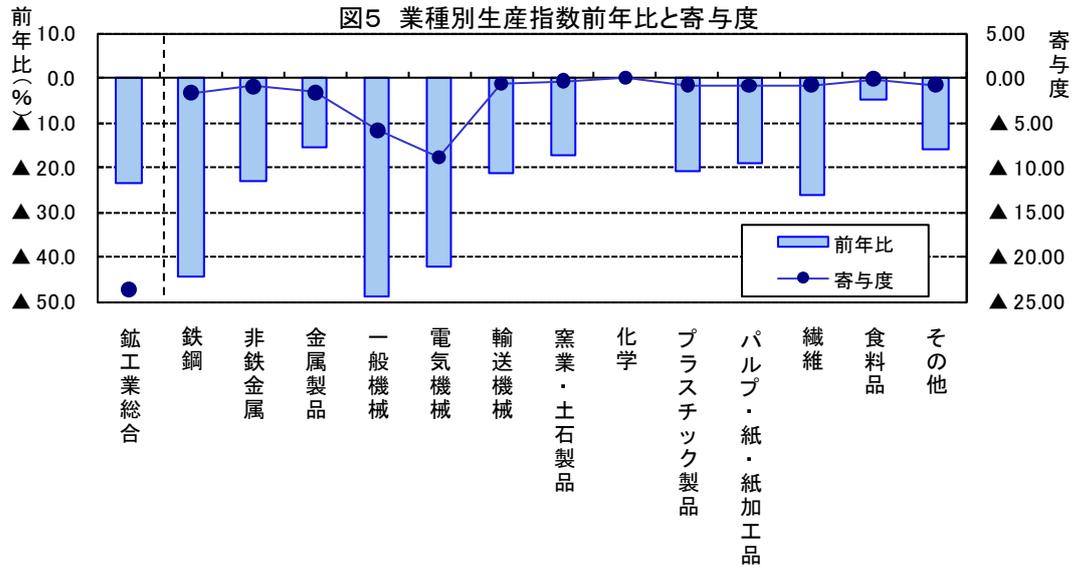
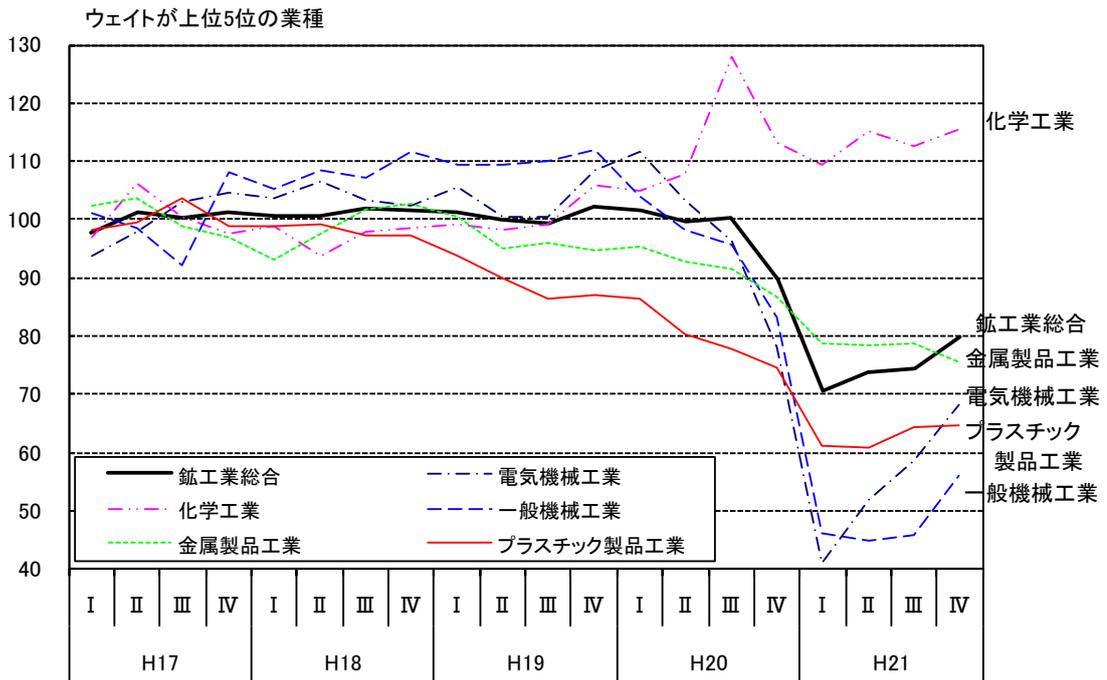


図6 生産指数(四半期季節調整済 平成17年=100)の推移



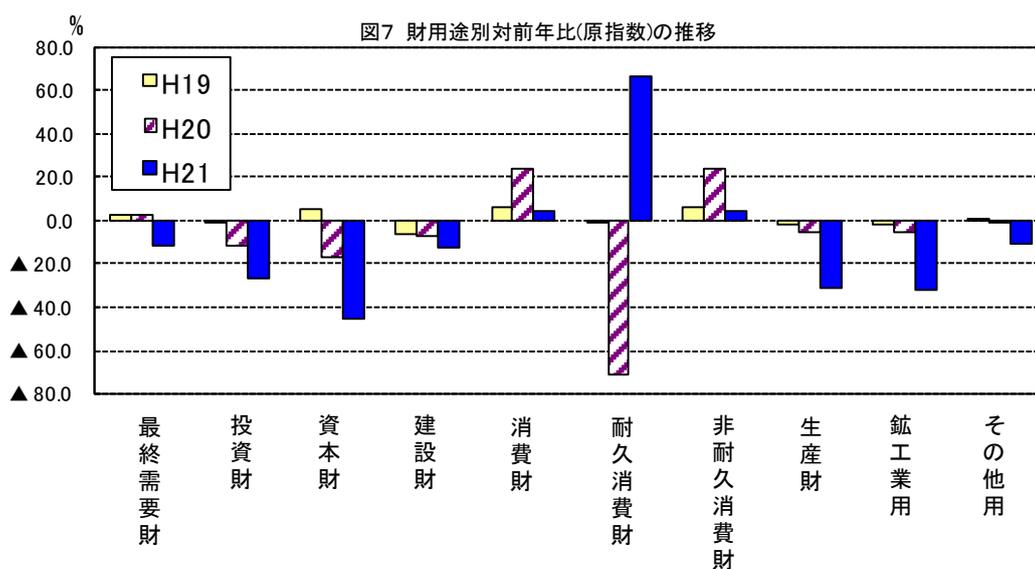
財用途別生産指数（原指数）の前年比は、最終需要財が▲11.2%低下し、生産財が▲31.1%低下したことにより、全体で▲23.6%低下した。

最終需要財では、消費財（寄与度 0.85）が前年比 4.5%上昇したものの、投資財（寄与度▲5.07）が前年比▲27.0%低下したことにより、全体では▲11.2%の低下となった。

生産財では、鉱工業用生産財（寄与度▲19.11）が前年比▲31.9%の低下となった（表4、図7、統計表第5表）。

表4 生産指数（財用途分類・年平均） 平成17年=100

	ウェイト (万分比)	年平均指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%point)
		20年	21年		
鉱工業	10000.0	97.8	74.7	▲ 23.6	▲ 23.62
最終需要財	3498.2	105.2	93.4	▲ 11.2	▲ 4.22
投資財	2034.1	90.4	66.0	▲ 27.0	▲ 5.07
資本財	845.7	96.4	52.3	▲ 45.7	▲ 3.81
建設財	1188.4	86.2	75.8	▲ 12.1	▲ 1.26
消費財	1464.1	125.8	131.5	4.5	0.85
耐久消費財	2.0	20.7	34.5	66.7	0.00
非耐久消費財	1462.1	125.9	131.6	4.5	0.85
生産財	6501.8	93.9	64.7	▲ 31.1	▲ 19.41
鉱工業用生産財	6250.1	93.6	63.7	▲ 31.9	▲ 19.11
その他用生産財	251.7	101.8	90.6	▲ 11.0	▲ 0.29



(2) 在庫動向 — 在庫指数は低下 —

平成 21 年の在庫指数（原指数）は、前年末比▲7.2%低下の 89.1 となり、3 年ぶりに低下した（表 5）。

表5 鉱工業生産者製品在庫指数の推移 平成17年=100

	富 山			全 国		
	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)
暦年推移(原指数)						
17年	95.5	▲ 0.5	-	99.2	4.8	-
18年	93.7	▲ 1.9	-	102.7	3.5	-
19年	94.1	0.4	-	104.0	1.3	-
20年	96.0	2.0	-	109.0	4.8	-
21年	89.1	▲ 7.2	-	93.1	▲ 14.6	-
平成21年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	92.5	-	▲ 6.0	100.0	-	▲ 8.8
II 期	90.9	-	▲ 1.7	96.1	-	▲ 3.9
III 期	91.3	-	0.4	94.4	-	▲ 1.8
IV 期	90.3	-	▲ 1.1	93.0	-	▲ 1.5

平成 21 年の在庫の動きを四半期別にみると、前期末比（季節調整済指数）は、I 期▲6.0%、II 期▲1.7%と 2 期連続で低下したが、III 期は 0.4%と上昇し、IV 期では▲1.1%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）では、I 期▲4.9%、II 期▲6.4%、III 期▲6.7%、IV 期▲7.2%と 4 期連続で前年を下回った（図 8、図 9）。

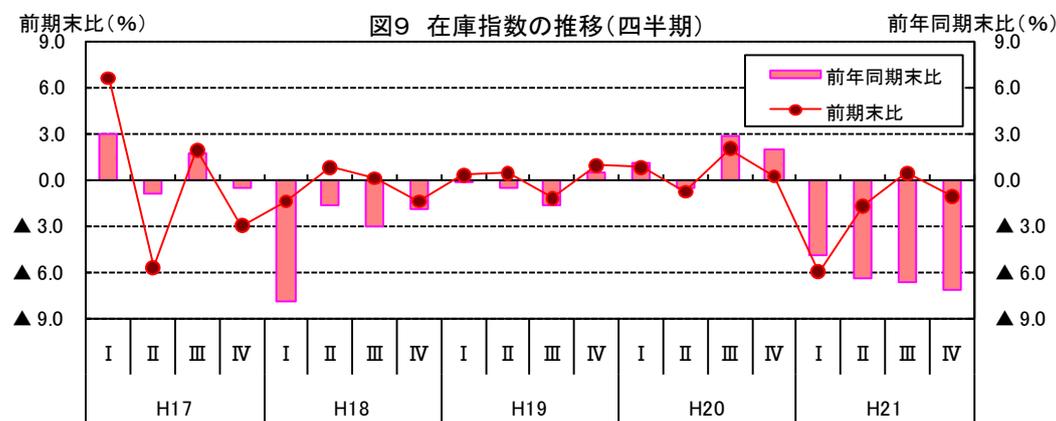
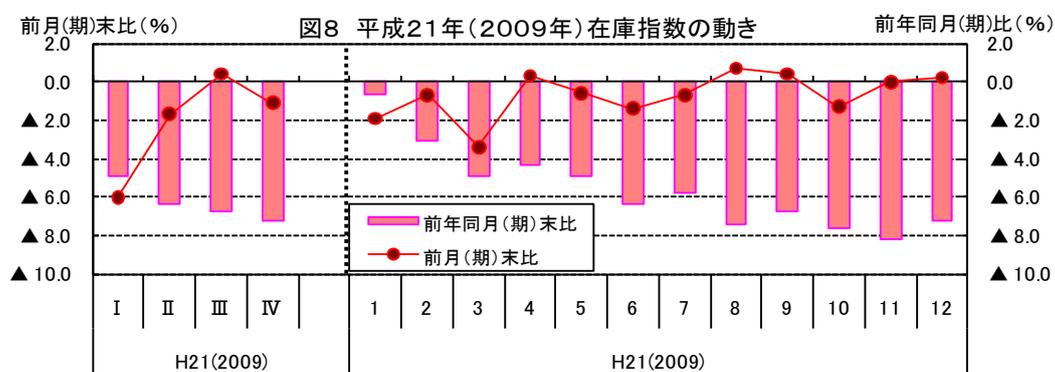


表6 在庫指数(年末)

平成17年=100

	富山県 ウェイト	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%point)	全国(参考) ウェイト
		20年	21年			
鉱工業	10000.0	96.0	89.1	▲ 7.2	▲ 7.19	10000.0
製造工業	10000.0	96.0	89.1	▲ 7.2	▲ 7.19	9984.4
鉄鋼業	1090.7	78.2	66.4	▲ 15.1	▲ 1.34	1062.1
非鉄金属工業	826.8	77.6	69.0	▲ 11.1	▲ 0.74	276.5
金属製品工業	674.5	98.4	59.1	▲ 39.9	▲ 2.76	715.5
一般機械工業	668.5	126.6	76.7	▲ 39.4	▲ 3.47	922.2
電気機械工業	38.5	321.3	321.3	0.0	0.00	1209.5
輸送機械工業	155.9	115.7	112.1	▲ 3.1	▲ 0.06	831.9
窯業・土石製品工業	433.0	73.4	58.3	▲ 20.6	▲ 0.68	632.8
化学工業	2527.2	107.1	131.8	23.1	6.50	1534.2
医薬品	1337.1	117.0	171.9	46.9	7.65	-
プラスチック製品工業	891.3	99.1	84.9	▲ 14.3	▲ 1.32	538.6
パルプ・紙・紙加工品工業	911.5	120.7	94.2	▲ 22.0	▲ 2.52	330.7
繊維工業	521.2	80.1	63.4	▲ 20.8	▲ 0.91	422.3
食料品工業	848.1	73.8	78.0	5.7	0.37	430.8
その他工業	412.8	57.2	52.8	▲ 7.7	▲ 0.19	538.5
(参考)						
産業総合(鉱工業、電力・ガス事業)	10001.4	96.0	89.1	▲ 7.2	▲ 7.19	10000.0
電力・ガス事業	1.4	125.9	126.2	0.2	0.00	-

※ 寄与度 = $\frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$

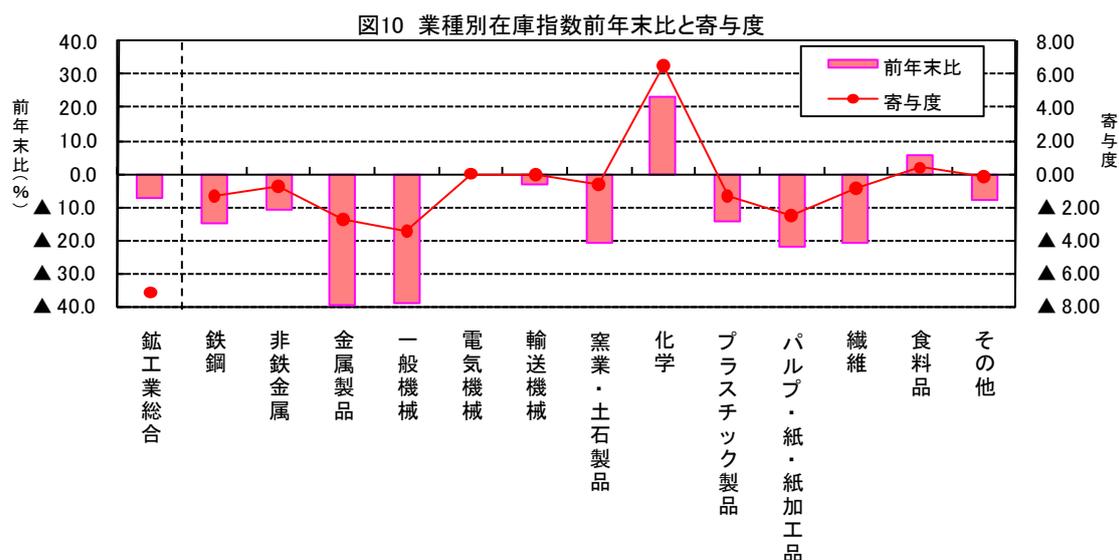
業種別にみると、製造工業 13 業種中、一般機械工業、金属製品工業など 10 業種が低下し、化学工業、食料品工業の 2 業種が上昇した。また、電気機械工業の 1 業種が横ばいとなった。(表 7、図 10、詳細は「2 業種別動向」を参照)。

在庫指数(原指数)全体の低下に最も影響を与えたのは一般機械工業(寄与度▲3.47)で、軸受などの減少により、前年末比▲39.4%低下の 76.7 となった。ついで、金属製品工業(寄与度▲2.76)は金属製建具などの減少により、前年末比▲39.9%低下の 59.1 となった。

一方、上昇に最も影響を与えたのは化学工業(寄与度 6.50)で医薬品などの増加により、前年末比 23.1%上昇の 131.8 となった。次いで、食料品工業(寄与度 0.37)が飲料などの増加で前年末比 5.7%上昇の 78.0 となった(表 6、表 7、図 10)。

表7 業種別在庫指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業種	寄与度(%point)	主な増加品目	主な減少品目
低下業種	一般機械工業	▲ 3.47	その他一般機械・部品	軸受
	金属製品工業	▲ 2.76	軽金属板製品	金属製建具
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 2.52	その他紙製品	紙
	鉄鋼業	▲ 1.34	—	鋳鍛鋼品類
	プラスチック製品工業	▲ 1.32	建材・強化製品	日用品雑貨
	繊維工業	▲ 0.91	織物	化繊・紡績
	非鉄金属工業	▲ 0.74	非鉄金属地金	アルミニウム二次精錬
	窯業・土石製品工業	▲ 0.68	—	セメント製品
	その他工業	▲ 0.19	木材・木製品工業	精密機械工業
	輸送機械工業	▲ 0.06	二輪自動車部品	自動車部品
	上昇業種	化学工業	6.50	医薬品
食料品工業		0.37	飲料	冷凍調理品
横ばい業種	電気機械工業	0.00	回転・静止電気機器	半導体



財用途別在庫指数（原指数）の前年末比は、最終需要財が 13.6%上昇したものの、生産財が▲21.2%低下したことにより、全体で▲7.2%低下した。

最終需要財では、投資財（寄与度▲1.98）が前年末比▲17.1%低下したものの、消費財（寄与度 7.46）が前年末比 26.0%上昇したことにより、全体では 13.6%の上昇となった。

生産財では、鉱工業用生産財（寄与度▲11.79）が前年末比▲21.0%の低下となった（表 8）。

表8 在庫指数(財用途分類・年末) 平成17年=100

	ウェイト (万分比)	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%point)
		20年	21年		
鉱工業	10,000.0	96.0	89.1	▲ 7.2	▲ 7.19
最終需要財	4,043.9	95.6	108.6	13.6	5.48
投資財	1,411.2	78.9	65.4	▲ 17.1	▲ 1.98
資本財	241.7	100.0	95.5	▲ 4.5	▲ 0.11
建設財	1,169.5	74.5	59.1	▲ 20.7	▲ 1.88
消費財	2,632.7	104.5	131.7	26.0	7.46
耐久消費財	-	-	-	-	-
非耐久消費財	2,632.7	104.5	131.7	26.0	7.46
生産財	5,956.1	96.3	75.9	▲ 21.2	▲ 12.66
鉱工業用生産財	5,660.1	95.4	75.4	▲ 21.0	▲ 11.79
その他用生産財	296.0	112.7	86.1	▲ 23.6	▲ 0.82

(3) 在庫循環

富山県の在庫循環図をみると、平成18年Ⅰ期～平成19年Ⅰ期は「在庫減少局面」に位置していた。平成19年Ⅱ期、Ⅲ期は「在庫調整局面」へ、Ⅳ期は「在庫積み増し局面」へ、平成20年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫調整局面」の境目へ、Ⅱ期は「在庫調整局面」と「在庫減少局面」の境目へ、Ⅲ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目へ、Ⅳ期、平成21年Ⅰ期～Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動した(図11)。

また、**全国の在庫循環図**をみると、平成18年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫積み増し局面」の境目に位置していた。平成18年Ⅱ期～平成19年Ⅱ期は「在庫積み増し局面」へ、Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫積み増し局面」の境目へ、Ⅳ期、平成20年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」へ、Ⅱ期、Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」へ、Ⅳ期、平成21年Ⅰ期～Ⅲ期は「在庫調整局面」へ、Ⅳ期は「在庫減少局面」へ移動した(図12)。

〔在庫循環図について〕

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環(Inventory Cycle)と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図(生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の4局面)として示すことができ、「在庫積み増し局面」→「在庫積み上がり局面」→「在庫調整局面」→「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起こり、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある(傾向変動を除去した場合)。

なお、過去の分析から、ほぼ40ヵ月(3～4年)の循環を示すことが多く、「キッチンの波」(Kitchen(Kitchin)が分析したもの)とも呼ばれる。

在庫循環の4局面とは、次のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す(図b1,b2)。

「在庫積み上がり局面」

景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる(意図せざる在庫投資、図c1,c2)。

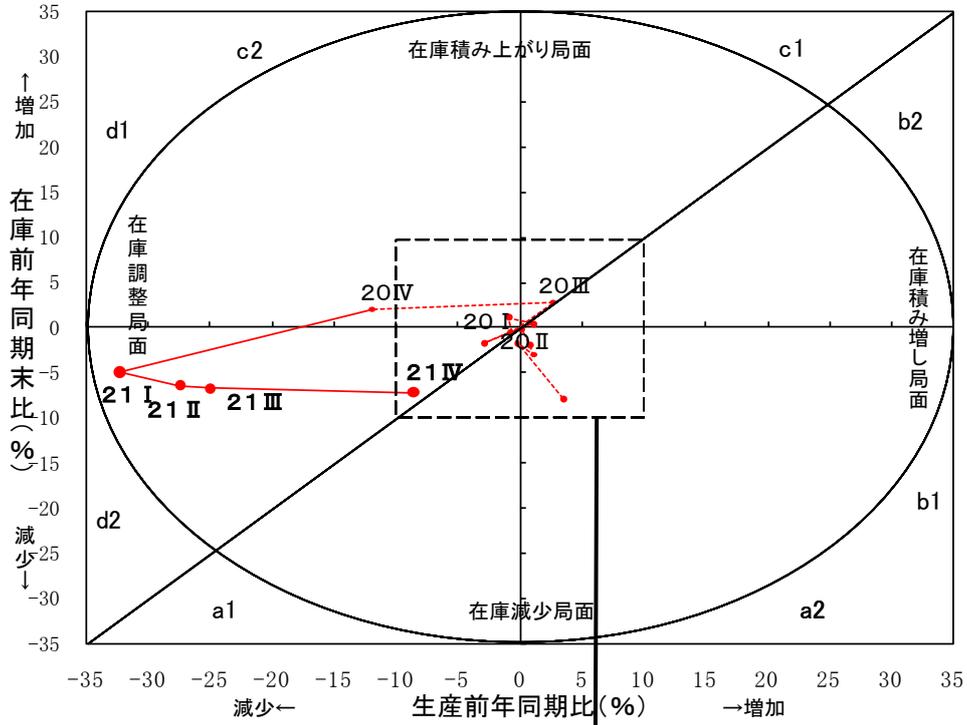
「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる(図d1,d2)。

「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する(意図せざる在庫減局面、図a1,a2)。

図11 富山県の在庫循環推移



点線内を拡大

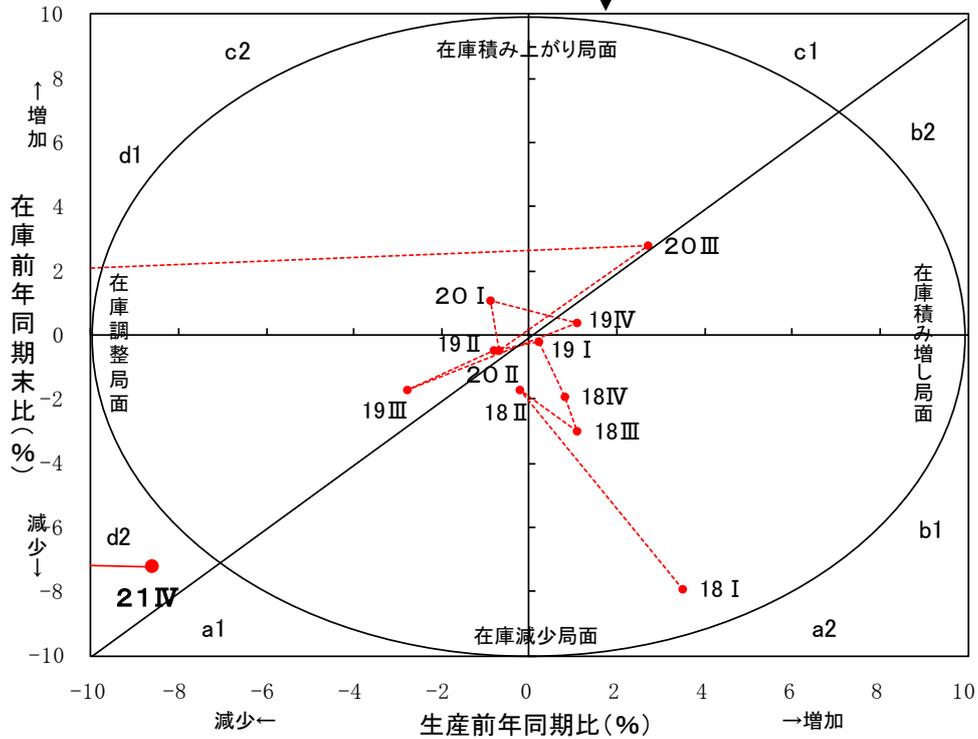
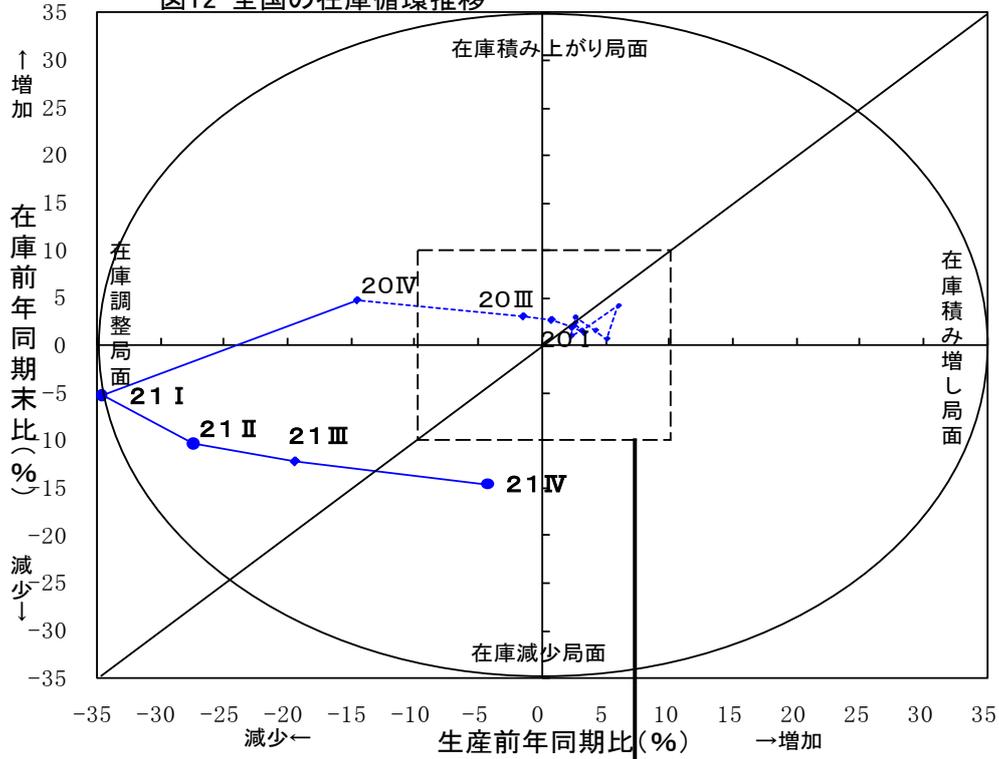
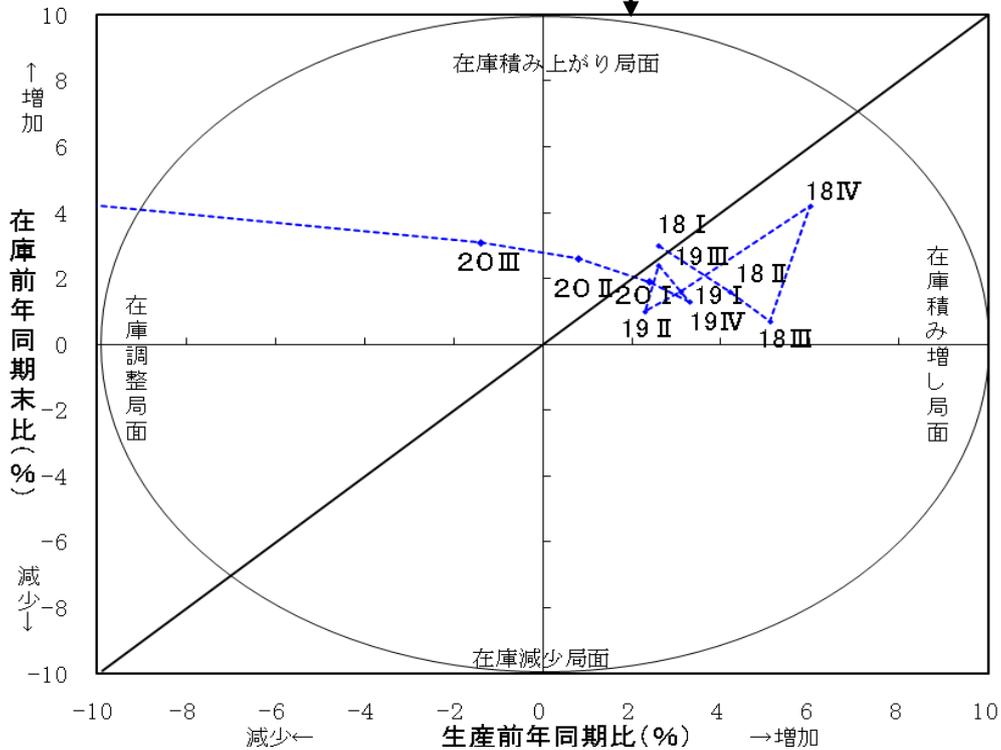


図12 全国の在庫循環推移



点線内を拡大



2 業種別動向

(1) 鉄鋼業

① 概況

生産指数は前年比▲44.3%（寄与度▲1.72）低下の60.6となり、3年ぶりに低下した（統計表第1表）。これは、3品目すべて（素製品（鋼半製品含）、熱間圧延鋼材、鑄鍛鋼品類）が減少したことによる（表1）。

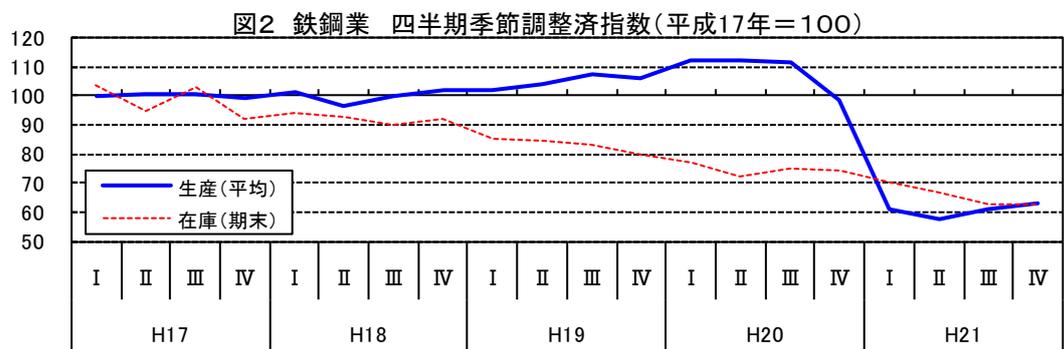
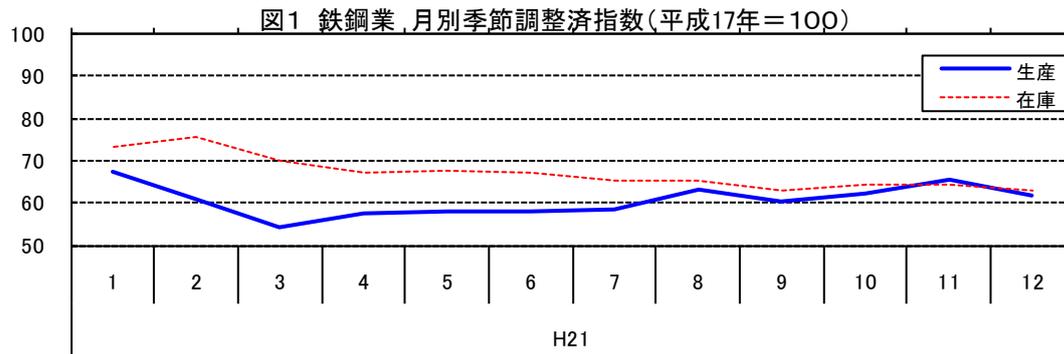
在庫指数は前年末比▲15.1%（寄与度▲1.34）低下の66.4となり、3年連続で低下した。これは3品目すべて（鑄鍛鋼品類など）が減少したことによる（表1）。

表1 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
鉄鋼業	349.5	108.8	60.6	▲44.3	▲1.72	1,090.7	78.2	66.4	▲15.1	▲1.34
素製品(鋼半製品含)	54.7	75.4	55.2	▲26.8	▲0.11	793.1	63.9	57.7	▲9.7	▲0.51
熱間圧延鋼材	55.7	118.5	100.4	▲15.3	▲0.10	167.4	124.7	111.1	▲10.9	▲0.24
鑄鍛鋼品類	239.1	114.2	52.5	▲54.0	▲1.51	130.2	105.7	61.3	▲42.0	▲0.60

平成17年=100

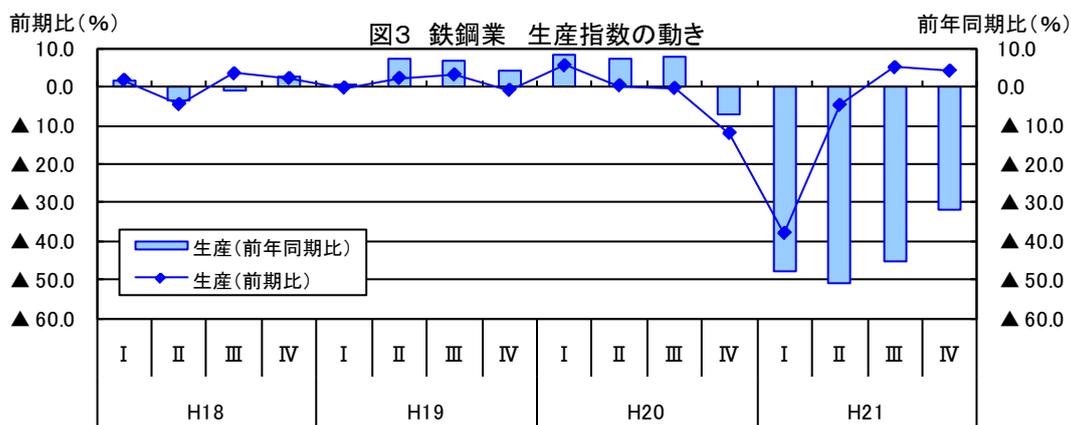
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲38.1%、Ⅱ期▲4.8%と平成20年Ⅲ期以降4期連続で低下したが、Ⅲ期5.0%、Ⅳ期4.1%と2期連続で上昇した。

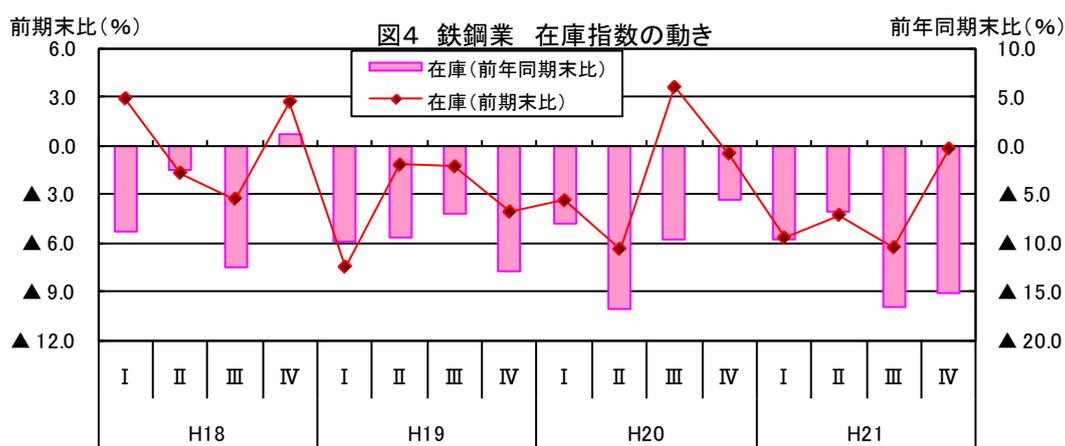
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲48.0%、Ⅱ期▲51.0%、Ⅲ期▲45.1%、Ⅳ期▲32.0%と平成20年Ⅳ期以降5期連続で前年を下回った（図3）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲5.7%、Ⅱ期▲4.3%、Ⅲ期▲6.3%、Ⅳ期▲0.2%と平成20年Ⅳ期以降5期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲9.7%、Ⅱ期▲6.8%、Ⅲ期▲16.5%、Ⅳ期▲15.1%と平成19年Ⅰ期以降12期連続で前年を下回った（図4）。



(2) 非鉄金属工業

① 概況

生産指数は前年比▲22.9%（寄与度▲0.98）低下の72.4となり、3年連続で低下した（統計表第1表）。これは7品目すべて（アルミニウム二次精錬、非鉄金属地金、伸銅製品、アルミニウム圧延製品、電線ケーブル、非鉄金属鋳物、その他非鉄金属製品）が減少したことによる（表2）。

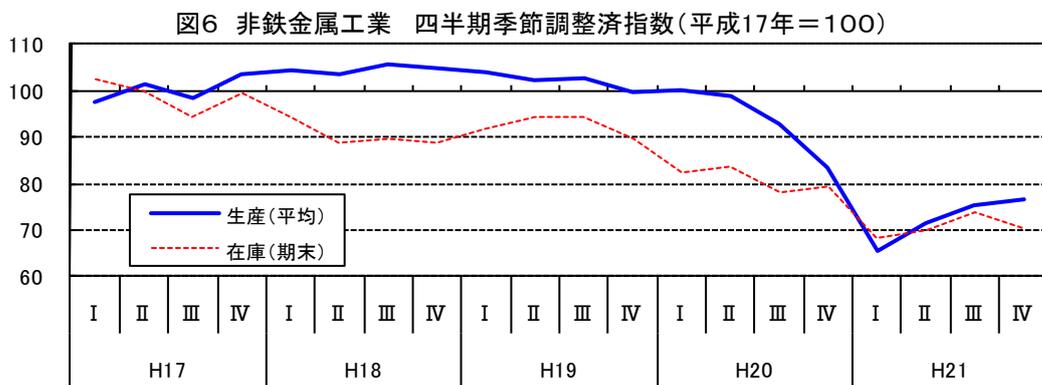
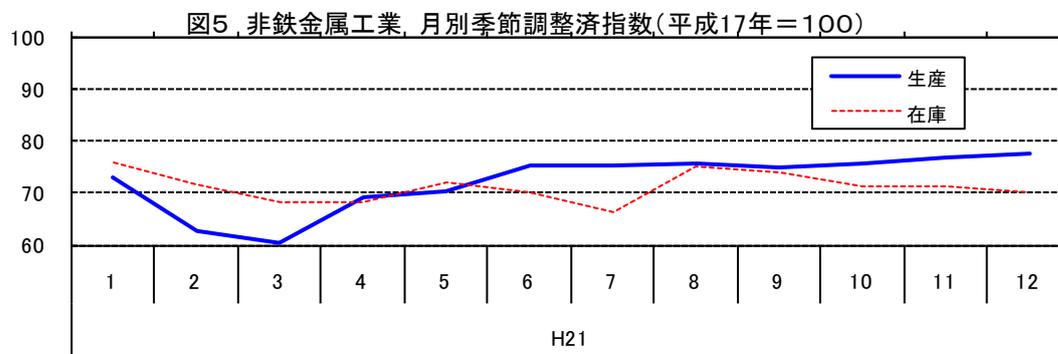
在庫指数は前年末比▲11.1%（寄与度▲0.74）低下の69.0となり、2年連続で低下した。これは5品目中、1品目（非鉄金属地金）が増加したものの、4品目（アルミニウム二次精錬など）が減少したことによる（表2）。

表2 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
非鉄金属工業	443.7	93.9	72.4	▲22.9	▲0.98	826.8	77.6	69.0	▲11.1	▲0.74
アルミニウム二次精錬	31.4	79.6	61.8	▲22.4	▲0.06	197.9	91.5	69.0	▲24.6	▲0.46
非鉄金属地金	9.8	104.4	97.9	▲6.2	▲0.01	28.4	115.8	119.3	3.0	0.01
伸銅製品	13.9	96.7	72.6	▲24.9	▲0.03	133.4	88.4	76.8	▲13.1	▲0.16
アルミニウム圧延製品	310.3	90.6	72.0	▲20.5	▲0.59	464.8	65.9	63.4	▲3.8	▲0.12
電線ケーブル	16.0	122.2	103.6	▲15.2	▲0.03	-	-	-	-	-
非鉄金属鋳物	57.7	106.0	68.2	▲35.7	▲0.22	-	-	-	-	-
その他非鉄金属製品	4.6	131.5	65.0	▲50.6	▲0.03	2.3	158.2	117.7	▲25.6	▲0.01

平成17年=100

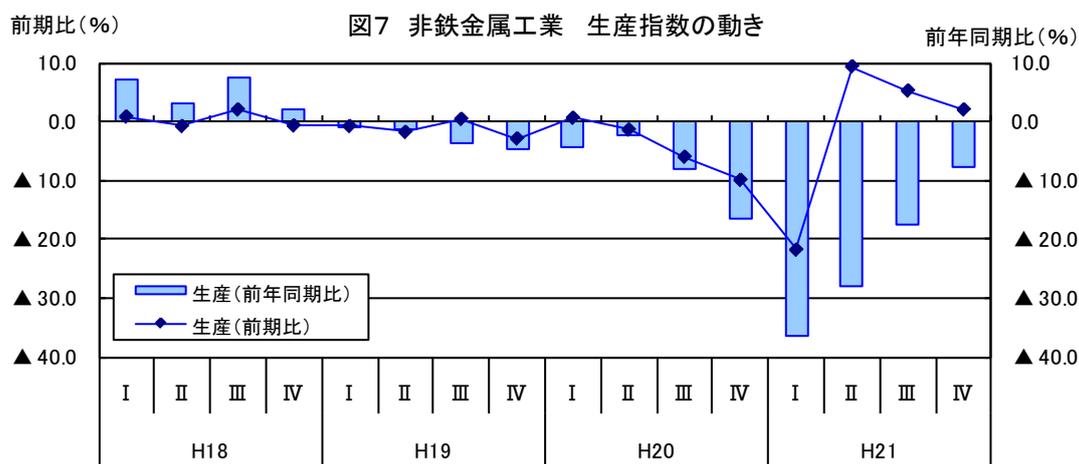
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲21.7%と平成20年Ⅱ期以降4期連続で低下したが、Ⅱ期9.3%、Ⅲ期5.2%、Ⅳ期2.0%と3期連続で上昇した。

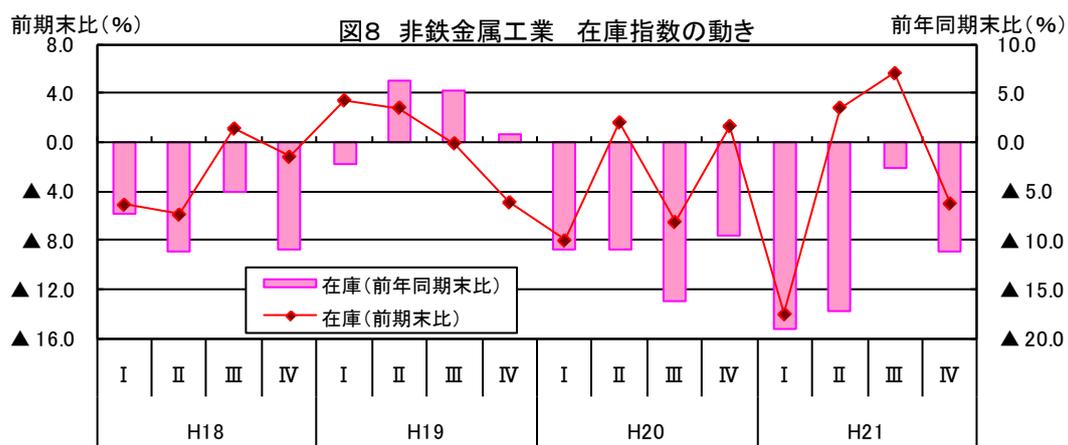
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲36.5%、Ⅱ期▲28.1%、Ⅲ期▲17.5%、Ⅳ期▲7.7%と平成19年Ⅰ期以降12期連続で前年を下回った（図7）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲14.0%と低下し、Ⅱ期2.8%、Ⅲ期5.6%と2期連続で上昇したが、Ⅳ期では▲5.0%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲19.1%、Ⅱ期▲17.3%、Ⅲ期▲2.7%、Ⅳ期▲11.1%と平成20年Ⅰ期以降8期連続で前年を下回った（図8）。



(3) 金属製品工業

① 概況

生産指数は前年比▲15.6%（寄与度▲1.66）低下の77.5となり、平成15年以降7年連続で低下した（統計表第1表）。これは6品目中、1品目（軽金属板製品）が増加したものの、5品目（鉄構物、金属製建具、管継手、ばね、その他金属製品）が減少したことによる（表3）。

在庫指数は前年末比▲39.9%（寄与度▲2.76）低下の59.1となり、2年ぶりに低下した。これは4品目中、1品目（軽金属板製品）が増加したものの、3品目（金属製建具など）が減少したことによる（表3）。

表3 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
金属製品工業	1134.9	91.8	77.5	▲15.6	▲1.66	674.5	98.4	59.1	▲39.9	▲2.76
鉄構物	60.7	128.4	118.3	▲7.9	▲0.06	-	-	-	-	-
金属製建具	838.2	85.2	74.4	▲12.7	▲0.93	511.6	81.4	48.7	▲40.2	▲1.74
軽金属板製品	108.8	85.8	92.2	7.5	0.07	66.9	81.6	137.2	68.1	0.39
管継手	13.6	92.2	66.0	▲28.4	▲0.04	-	-	-	-	-
ばね	11.6	90.4	58.3	▲35.5	▲0.04	60.9	247.1	26.1	▲89.4	▲1.40
その他金属製品	102.0	130.8	67.0	▲48.8	▲0.67	35.1	120.1	118.7	▲1.2	▲0.01

平成17年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図9 金属製品工業 月別季節調整済指数(平成17年=100)

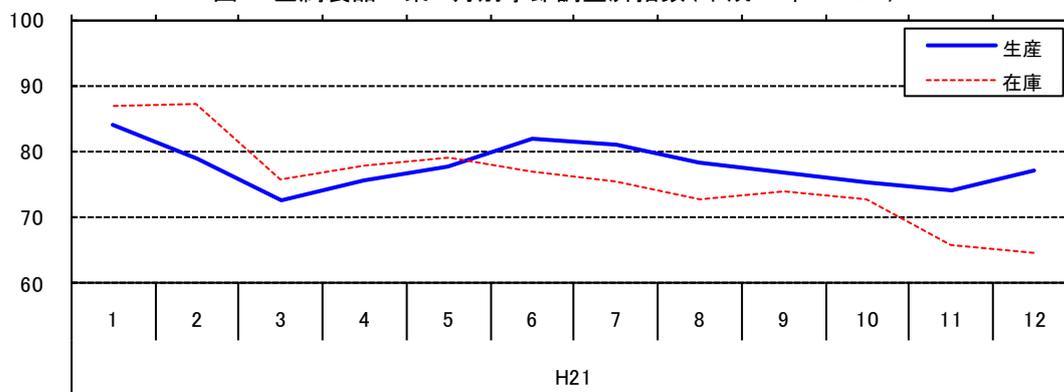
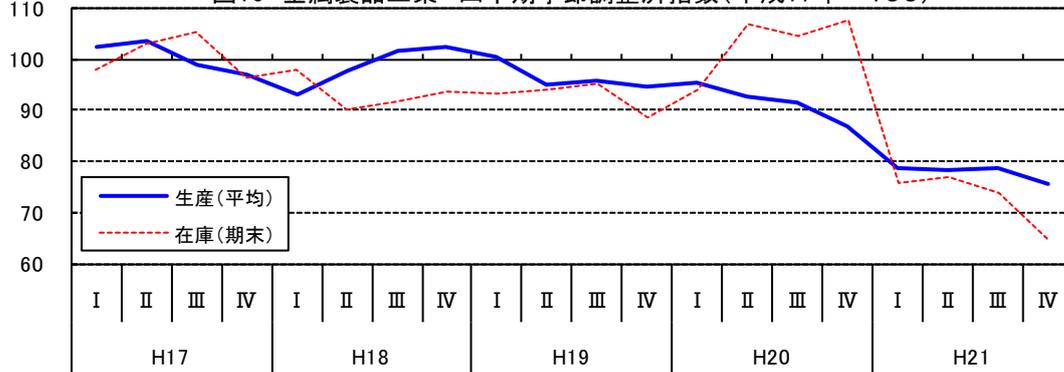


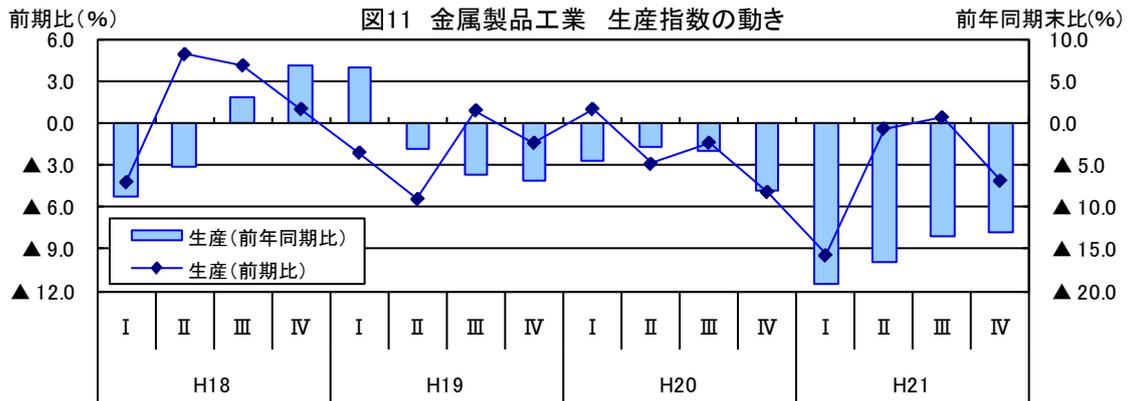
図10 金属製品工業 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲9.4%、Ⅱ期▲0.4%と平成20年Ⅱ期以降5期連続で低下したが、Ⅲ期は0.4%と上昇し、Ⅳ期では▲4.1%と再び低下した。

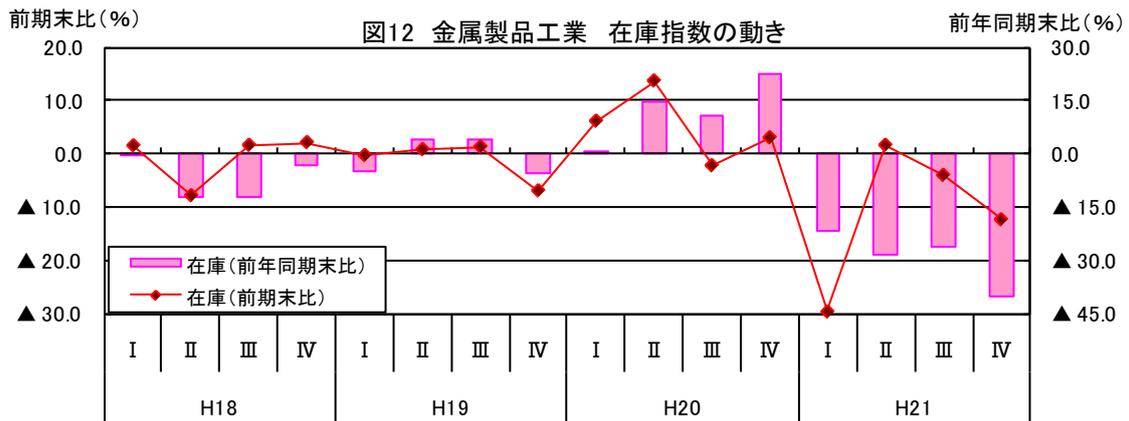
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲19.1%、Ⅱ期▲16.6%、Ⅲ期▲13.5%、Ⅳ期▲13.0%と平成19年Ⅱ期以降11期連続で前年を下回った（図11）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲29.5%と低下したが、Ⅱ期は1.6%と上昇し、Ⅲ期▲4.0%、Ⅳ期▲12.3%と2期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲21.7%、Ⅱ期▲28.4%、Ⅲ期▲26.4%、Ⅳ期▲39.9%と4期連続で前年を下回った（図12）。



(4) 一般機械工業

① 概況

生産指数は前年比▲49.1%（寄与度▲5.88）低下の48.7となり、2年連続で低下した（統計表第1表）。これは7品目すべて（油圧機器、軸受、ロボット・産業機械、金属工作機械、金型、機械工具、その他一般機械・部品）が減少したことによる（表4）。

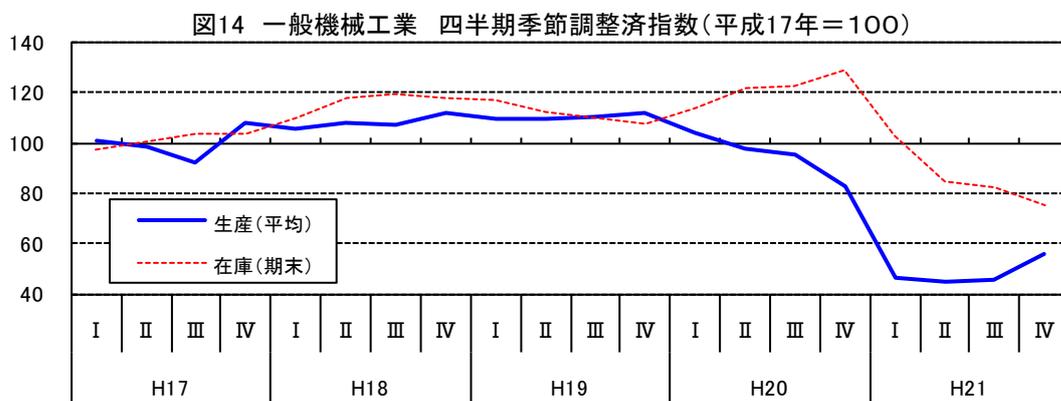
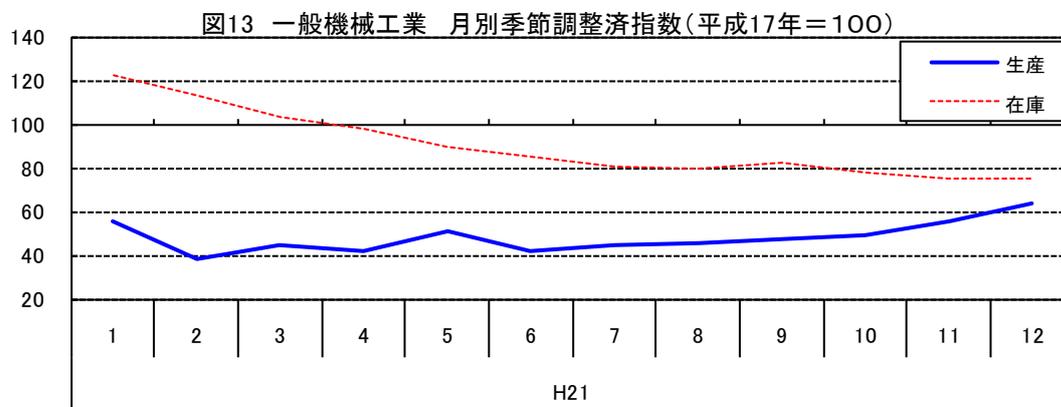
在庫指数は前年末比▲39.4%（寄与度▲3.47）低下の76.7となり、2年ぶりに低下した。これは5品目中、1品目（その他一般機械・部品）が増加したものの、4品目（軸受など）が減少したことによる（表4）。

表4 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
一般機械工業	1225.6	95.0 [↓]	48.7	▲49.1	▲5.88	668.5	126.6 [↓]	76.7	▲39.4	▲3.47
油圧機器	77.1	85.7 [↓]	25.9	▲69.8	▲0.47	45.1	200.7 [↓]	145.8	▲27.4	▲0.26
軸受	273.6	110.9 [↓]	67.6	▲39.0	▲1.21	319.1	146.1 [↓]	68.6	▲53.0	▲2.58
ロボット・産業機械	326.7	86.7 [↓]	31.0	▲64.2	▲1.86	-	-	-	-	-
金属工作機械	274.7	101.6 [↓]	59.9	▲41.0	▲1.17	27.9	138.2 [↓]	113.5	▲17.9	▲0.07
金型	83.4	91.7 [↓]	50.7	▲44.7	▲0.35	-	-	-	-	-
機械工具	156.1	88.0 [↓]	43.3	▲50.8	▲0.71	226.7	84.1 [↓]	52.0	▲38.2	▲0.76
その他一般機械・部品	34.0	75.6 [↓]	46.8	▲38.1	▲0.10	49.7	121.0 [↓]	158.7	31.2	0.20

平成17年=100

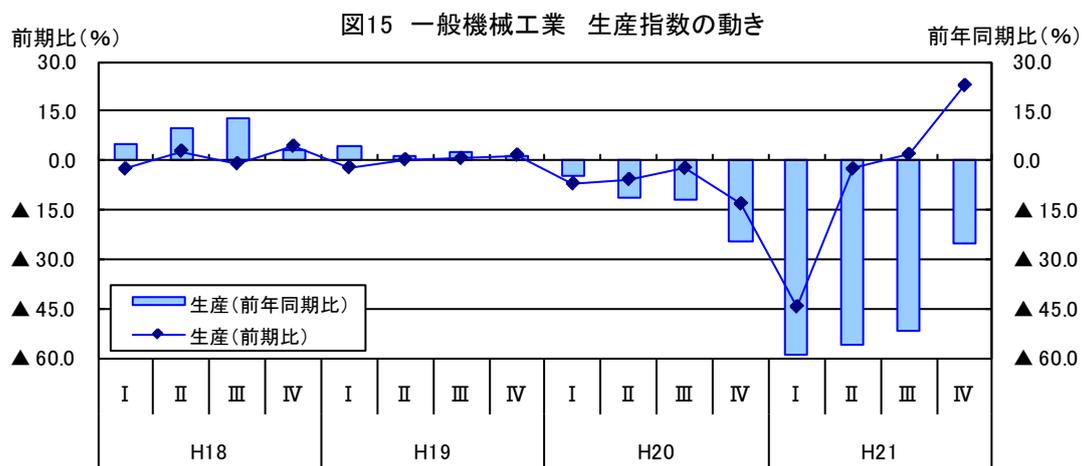
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲44.4%、Ⅱ期▲2.6%と平成20年Ⅰ期以降6期連続で低下したが、Ⅲ期1.8%、Ⅳ期22.7%と2期連続で上昇した。

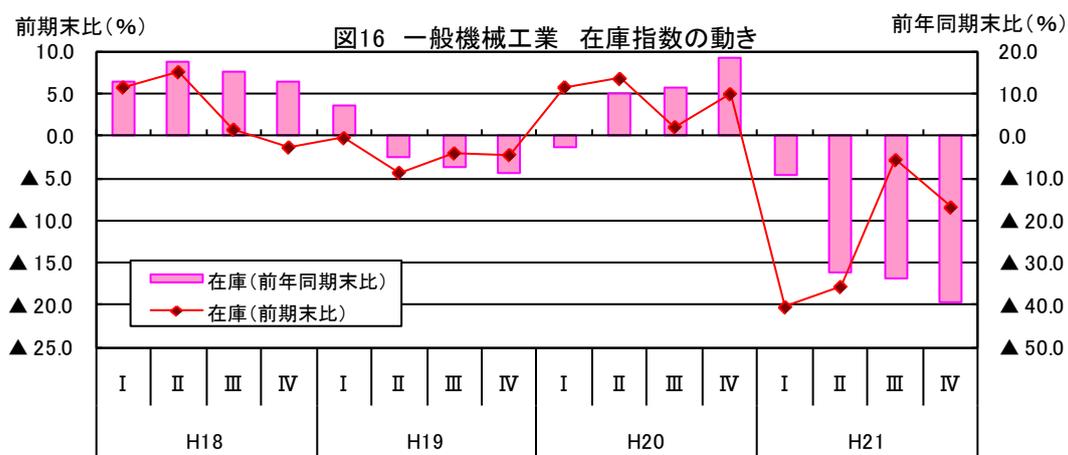
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲58.8%、Ⅱ期▲55.9%、Ⅲ期▲51.6%、Ⅳ期▲25.5%と平成20年Ⅰ期以降8期連続で前年を下回った（図15）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲20.2%、Ⅱ期▲17.8%、Ⅲ期▲2.8%、Ⅳ期▲8.4%と4期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲9.3%、Ⅱ期▲32.4%、Ⅲ期▲33.5%、Ⅳ期▲39.4%と4期連続で前年を下回った（図16）。



(5) 電気機械工業

① 概況

生産指数は前年比▲42.4%（寄与度▲8.90）低下の55.9となり、3年連続で低下した（統計表第1表）。これは6品目すべて（回転・静止電気機器、その他電気機械、半導体、集積回路、抵抗器、電子部品）が減少したことによる（表5）。

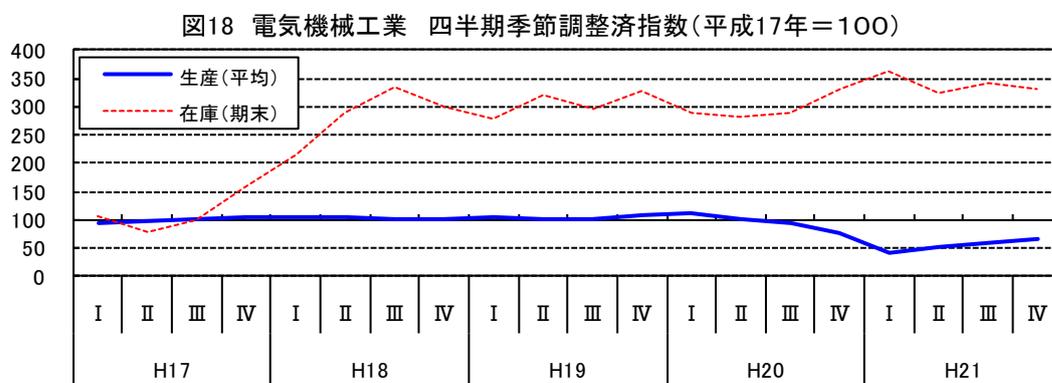
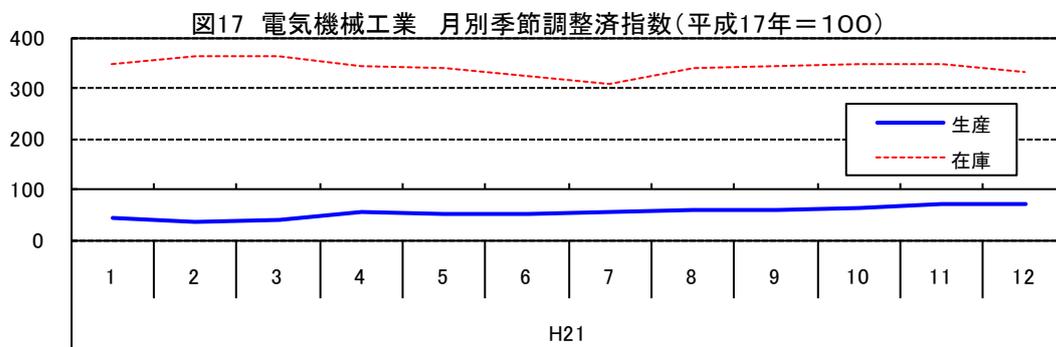
在庫指数は前年末比0.0%（寄与度0.00）の321.3で横ばいとなった。これは2品目中、1品目（回転・静止電気機器）が増加したものの、1品目（半導体）が減少したことによる（表5）。

表5 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
電気機械工業	2112.5	97.1	55.9	▲42.4	▲8.90	38.5	321.3	321.3	0.0	0.00
回転・静止電気機器	66.7	92.9	77.1	▲17.0	▲0.11	28.6	202.5	204.0	0.7	0.00
その他電気機械	44.3	139.0	84.9	▲38.9	▲0.25	-	-	-	-	-
半導体	46.5	73.7	33.5	▲54.5	▲0.19	9.9	664.6	660.0	▲0.7	▲0.00
集積回路	1359.8	94.2	45.9	▲51.3	▲6.72	-	-	-	-	-
抵抗器	61.7	105.1	87.8	▲16.5	▲0.11	-	-	-	-	-
電子部品	533.5	102.6	74.6	▲27.3	▲1.53	-	-	-	-	-

平成17年=100

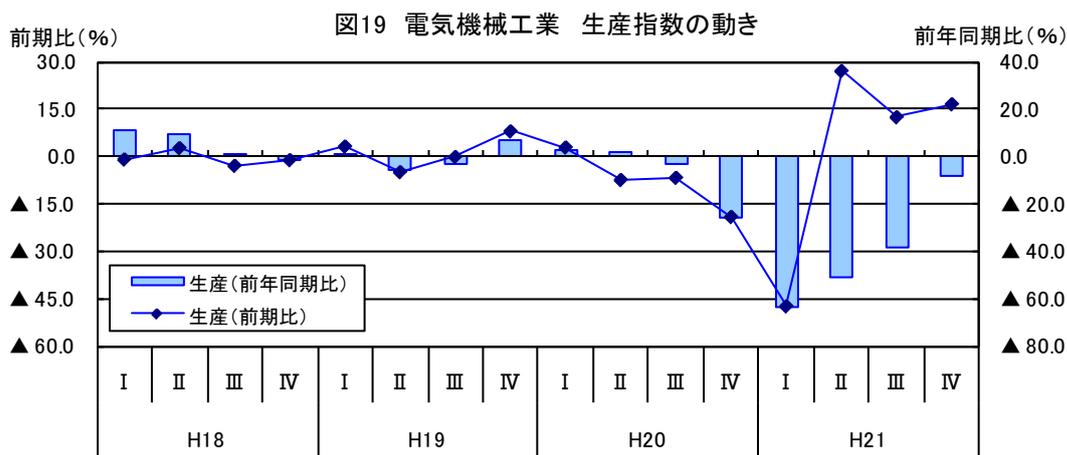
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、I期は▲47.4%と平成20年II期以降4期連続で低下したが、II期27.1%、III期12.5%、IV期16.6%と3期連続で上昇した。

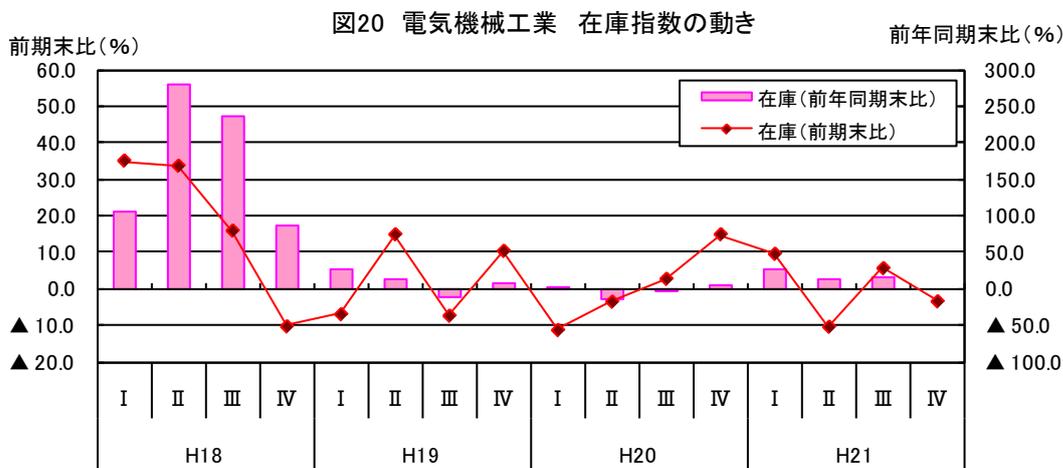
また、前年同期比（原指数）は、I期▲64.0%、II期▲51.1%、III期▲38.3%、IV期▲7.9%と平成20年III期以降6期連続で前年を下回った（図19）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、I期は9.5%と平成20年III期以降3期連続で上昇したが、II期は▲10.3%と低下し、III期では5.6%と再び上昇したが、IV期では▲3.4%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）では、I期27.8%、II期13.0%、III期16.8%と平成20年IV期以降4期連続で前年を上回ったが、IV期は前年比横ばいとなった（図20）。



(6) 輸送機械工業

① 概況

生産指数は前年比▲21.4%（寄与度▲0.65）低下の67.9となり、3年連続で低下した（統計表第1表）。これは3品目すべて（自動車ボデー、自動車部品、二輪自動車部品）が減少したことによる（表6）。

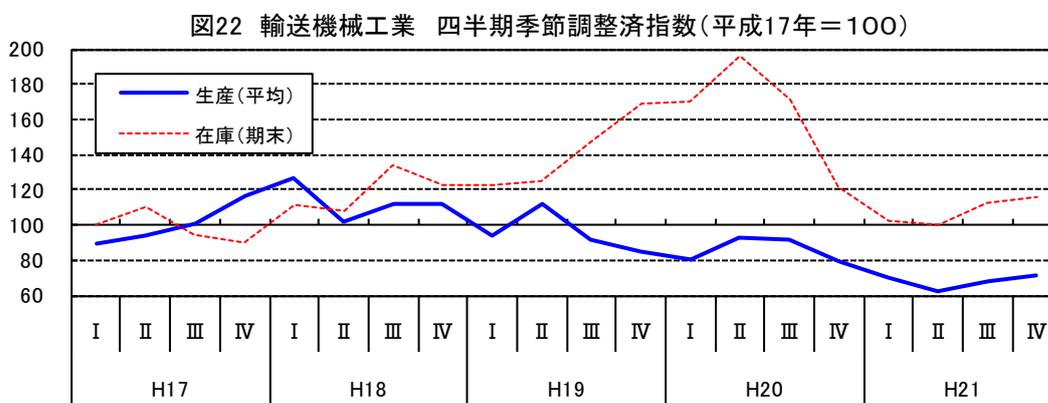
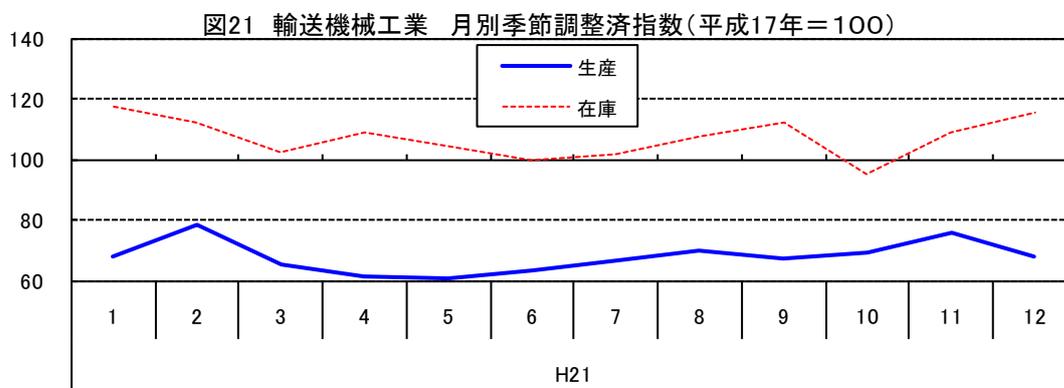
在庫指数は前年末比▲3.1%（寄与度▲0.06）低下の112.1となり、2年連続で低下した。これは2品目中、1品目（二輪自動車部品）が増加したものの、ウェイトが高く影響の大きい1品目（自動車部品）が減少したことによる（表6）。

表6 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
輸送機械工業	342.4	86.4	67.9	▲21.4	▲0.65	155.9	115.7	112.1	▲3.1	▲0.06
自動車ボデー	245.5	73.8	62.2	▲15.7	▲0.29	-	-	-	-	-
自動車部品	74.1	123.9	84.0	▲32.2	▲0.30	133.4	115.3	101.3	▲12.1	▲0.19
二輪自動車部品	22.8	99.9	76.5	▲23.4	▲0.05	22.5	118.4	176.4	49.0	0.14

平成17年=100

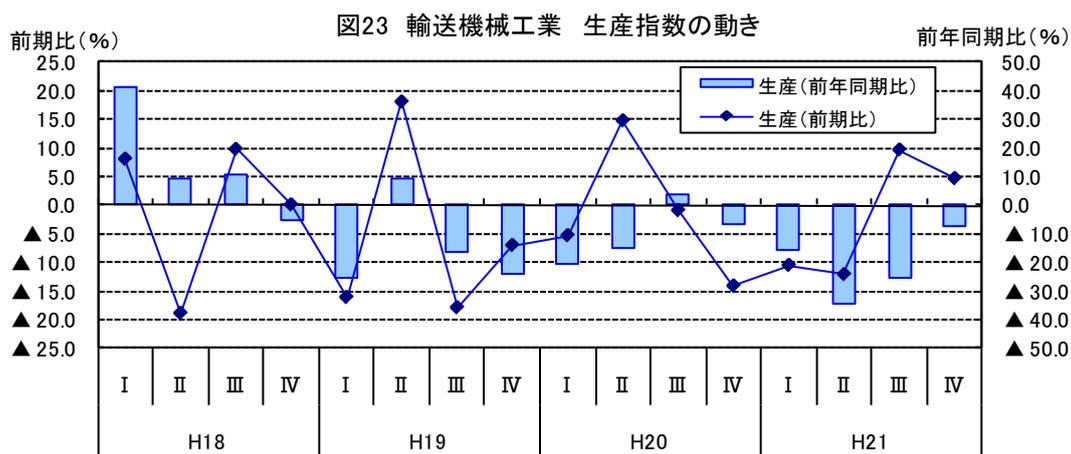
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲10.5%、Ⅱ期▲12.1%と平成20年Ⅲ期以降4期連続で低下したが、Ⅲ期9.7%、Ⅳ期4.7%と2期連続で上昇した。

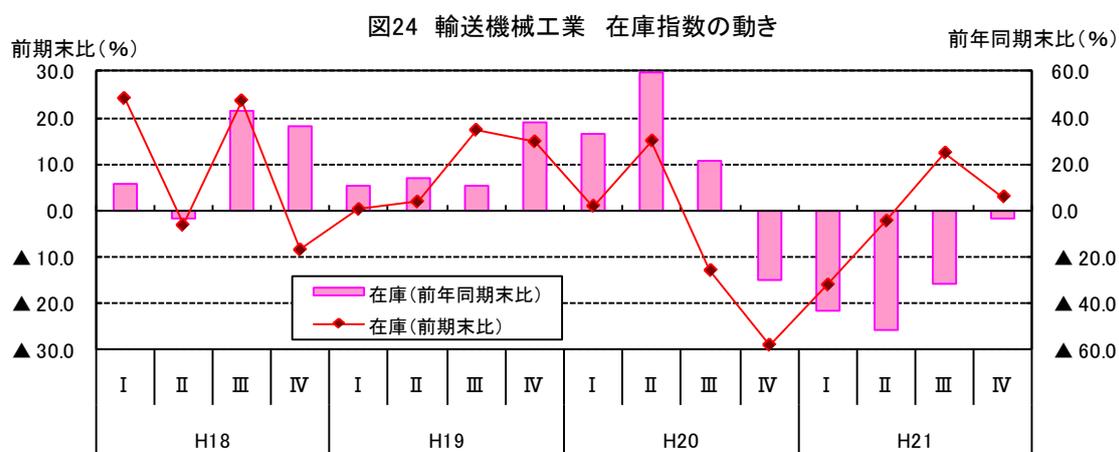
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲15.4%、Ⅱ期▲34.2%、Ⅲ期▲25.1%、Ⅳ期▲7.3%と平成20年Ⅳ期以降5期連続で前年を下回った（図23）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲15.9%、Ⅱ期▲2.2%と平成20年Ⅲ期以降4期連続で低下したが、Ⅲ期12.4%、Ⅳ期3.0%と2期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲43.2%、Ⅱ期▲51.2%、Ⅲ期▲31.5%、Ⅳ期▲3.1%と平成20年Ⅳ期以降5期連続で前年を下回った。（図24）。



(7) 窯業・土石製品工業

① 概況

生産指数は前年比▲17.5%（寄与度▲0.38）低下の73.5となり、4年連続で低下した（統計表第1表）。これは6品目中、1品目（生コンクリート）が増加したものの、5品目（ガラス製品、セメント製品、炭素製品、ファインセラミックス、その他窯業・土石製品）が減少したことによる（表7）。

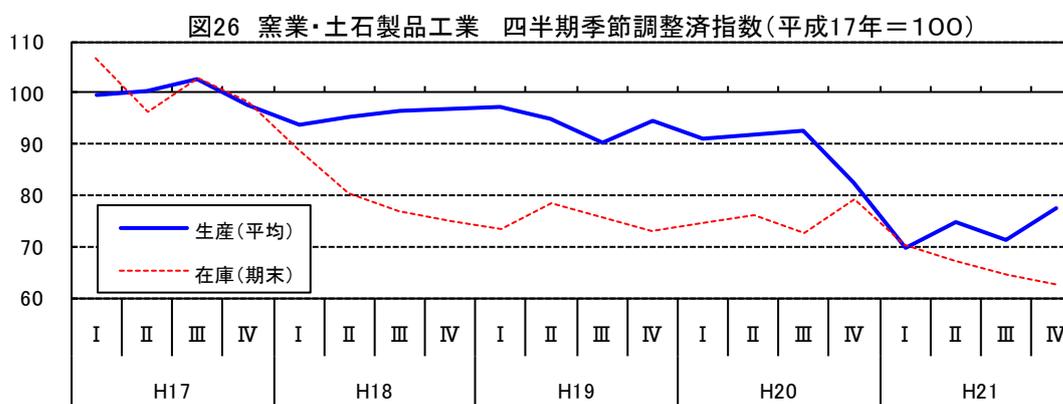
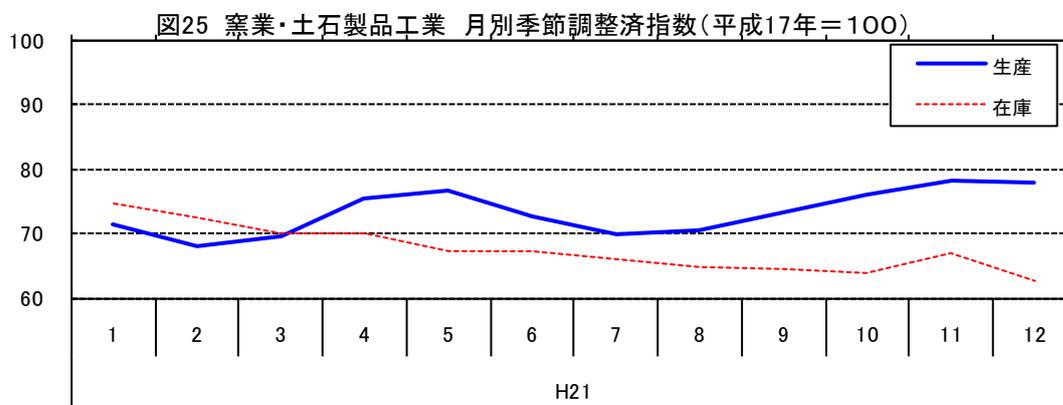
在庫指数は前年末比▲20.6%（寄与度▲0.68）低下の58.3となり、2年ぶりに低下した。これは5品目すべて（セメント製品など）が減少したことによる（表7）。

表7 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
窯業・土石製品工業	236.9	89.1	73.5	▲17.5	▲0.38	433.0	73.4	58.3	▲20.6	▲0.68
ガラス製品	62.5	80.1	64.7	▲19.2	▲0.10	15.8	75.6	62.3	▲17.6	▲0.02
生コンクリート	59.6	85.0	103.6	21.9	0.11	-	-	-	-	-
セメント製品	18.3	92.5	80.3	▲13.2	▲0.02	218.3	81.7	68.7	▲15.9	▲0.30
炭素製品	64.6	103.3	66.0	▲36.1	▲0.25	58.1	83.5	50.3	▲39.8	▲0.20
ファインセラミックス	5.8	117.1	62.1	▲47.0	▲0.03	7.0	154.5	62.7	▲59.4	▲0.07
その他窯業・土石製品	26.1	76.6	42.4	▲44.6	▲0.09	133.8	51.0	44.1	▲13.5	▲0.10

平成17年=100

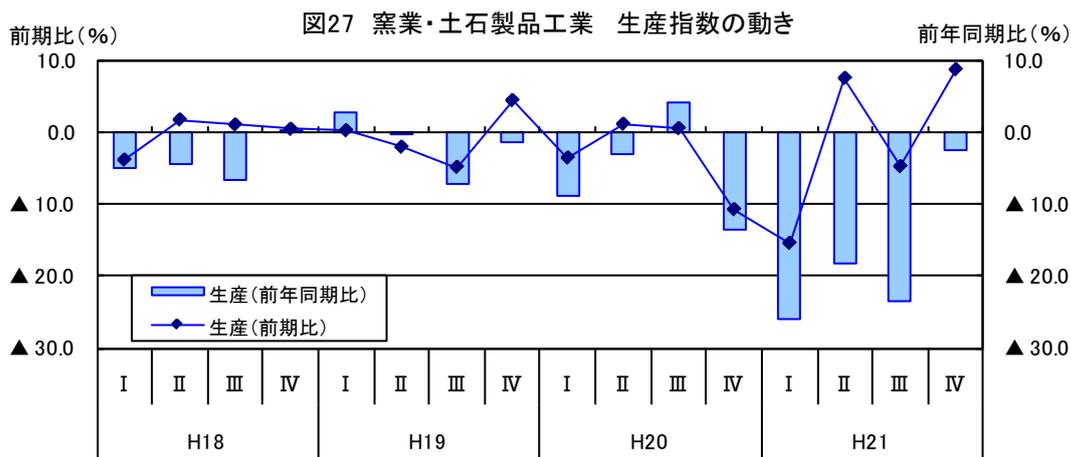
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲15.5%と平成20年Ⅳ期以降2期連続で低下し、Ⅱ期は7.5%と上昇したが、Ⅲ期では▲4.8%と再び低下し、Ⅳ期では8.7%と再び上昇した。

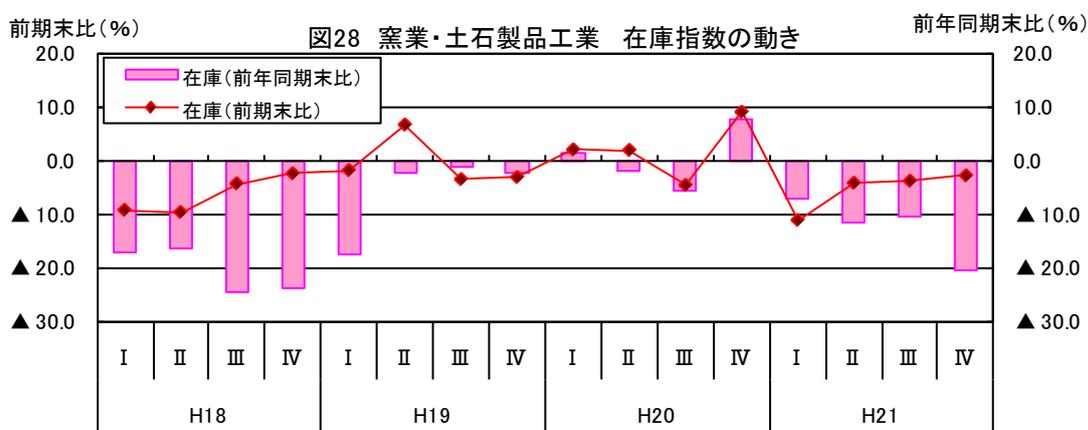
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲26.1%、Ⅱ期▲18.4%、Ⅲ期▲23.5%、Ⅳ期▲2.5%と平成20年Ⅳ期以降5期連続で前年を下回った（図27）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲11.3%、Ⅱ期▲4.3%、Ⅲ期▲3.9%、Ⅳ期▲2.9%と4期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲7.3%、Ⅱ期▲11.5%、Ⅲ期▲10.4%、Ⅳ期▲20.6%と4期連続で前年を下回った（図28）。



(8) 化学工業

① 概況

生産指数は前年比 0.0% (寄与度 0.00) の 113.5 で横ばいとなった(統計表第1表)。これは 8 品目中、7 品目(化学肥料、ソーダ工業品、無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品、接着剤、医薬品原末・原液)が減少したものの、ウェイトが高く影響の大きい 1 品目(医薬品)が増加したことによる(表8)。

在庫指数は前年末比 23.1% (寄与度 6.50) 上昇の 131.8 となり、2 年ぶりに上昇した。これは 8 品目中、4 品目(プラスチック樹脂など)が減少したものの、大きく増加した医薬品を含む、4 品目(その他化学製品など)が増加したことによる(表8)。

表8 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
化学工業	2034.0	113.5	113.5	0.0	0.00	2,527.2	107.1	131.8	23.1	6.50
化学肥料	198.4	92.8	82.2	▲ 11.4	▲ 0.22	110.0	92.9	72.5	▲ 22.0	▲ 0.23
ソーダ工業品	30.8	97.5	88.3	▲ 9.4	▲ 0.03	6.8	96.7	111.9	15.7	0.01
無機化学製品	42.3	98.2	64.7	▲ 34.1	▲ 0.14	26.6	91.7	76.7	▲ 16.4	▲ 0.04
プラスチック樹脂	251.1	65.1	54.8	▲ 15.8	▲ 0.26	291.9	97.1	73.9	▲ 23.9	▲ 0.71
その他化学製品	190.0	95.5	89.5	▲ 6.3	▲ 0.12	276.6	96.1	108.1	12.5	0.35
接着剤	100.0	90.0	75.3	▲ 16.3	▲ 0.15	133.3	117.6	74.9	▲ 36.3	▲ 0.59
医薬品原末・原液	132.6	113.3	101.7	▲ 10.2	▲ 0.16	344.9	88.0	90.1	2.4	0.08
医薬品	1088.8	134.8	144.5	7.2	1.08	1,337.1	117.0	171.9	46.9	7.65

寄与度は鉱工業に対する数値

図29 化学工業 月別季節調整済指数(平成17年=100)

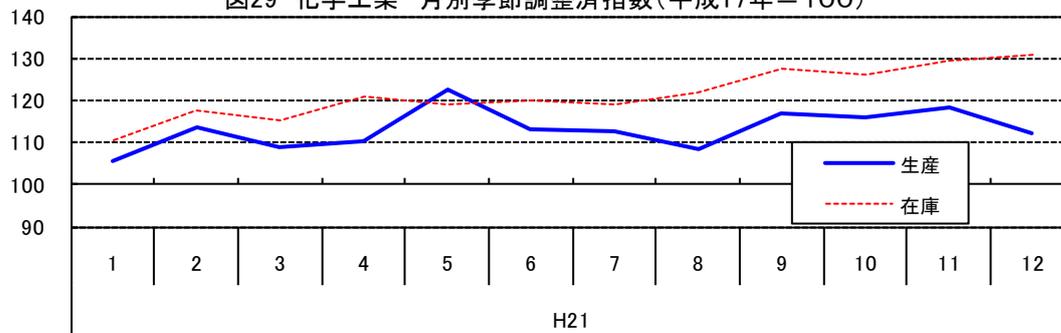
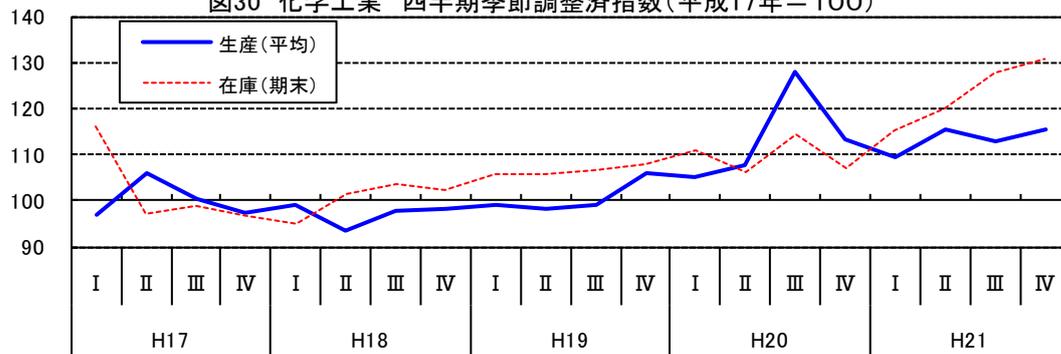


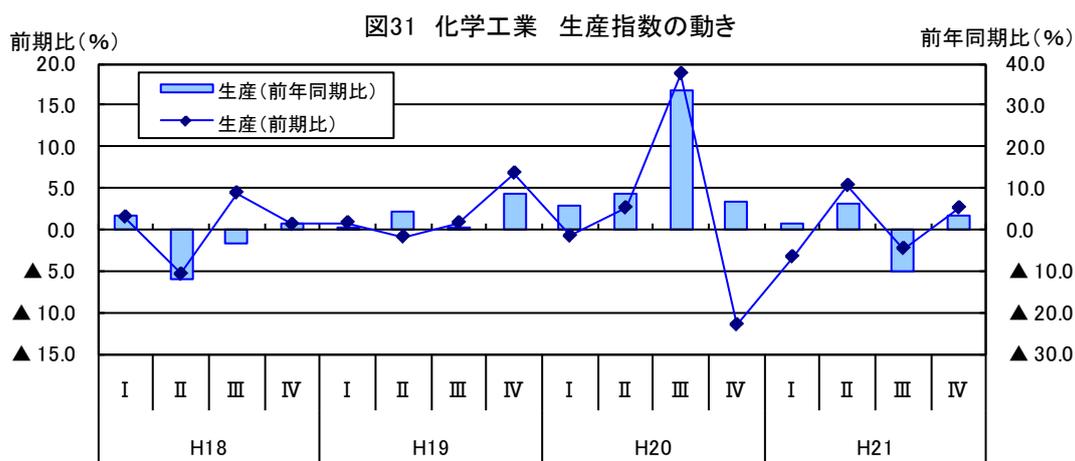
図30 化学工業 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲3.3%と平成20年Ⅳ期以降2期連続で低下したが、Ⅱ期は5.3%と上昇し、Ⅲ期では▲2.3%と再び低下したが、Ⅳ期では2.6%と再び上昇した。

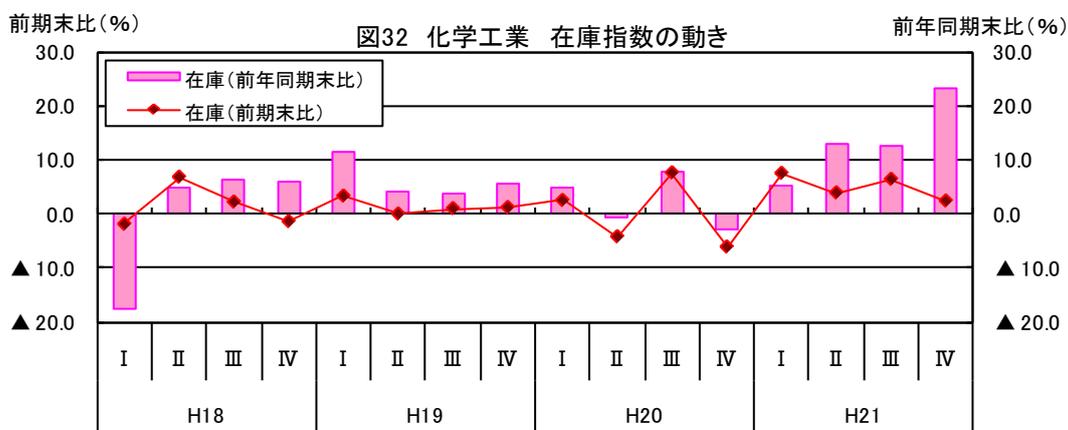
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期1.2%、Ⅱ期6.3%と平成18年Ⅳ期以降11期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期は▲10.3%と前年を下回り、Ⅳ期では3.2%と再び前年を上回った。（図31）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期7.5%、Ⅱ期3.9%、Ⅲ期6.4%、Ⅳ期2.4%と4期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期5.2%、Ⅱ期12.9%、Ⅲ期12.5%、Ⅳ期23.1%と4期連続で前年を上回った。（図32）。



(9) プラスチック製品工業

① 概況

生産指数は前年比▲21.1%（寄与度▲0.81）低下の62.9となり、4年連続で低下した（統計表第1表）。これは6品目中、1品目（フィルム・シート）が増加したものの、5品目（機械器具部品、容器、日用品雑貨、建材・強化製品、その他プラスチック製品）が減少したことによる（表9）。

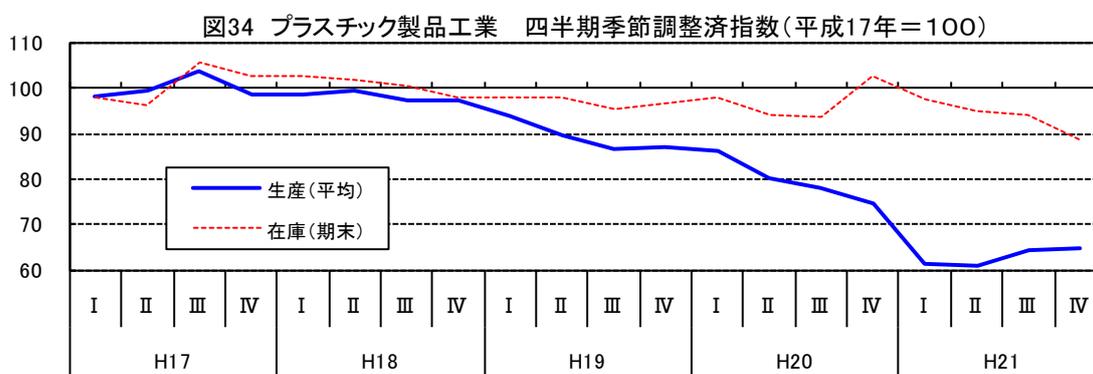
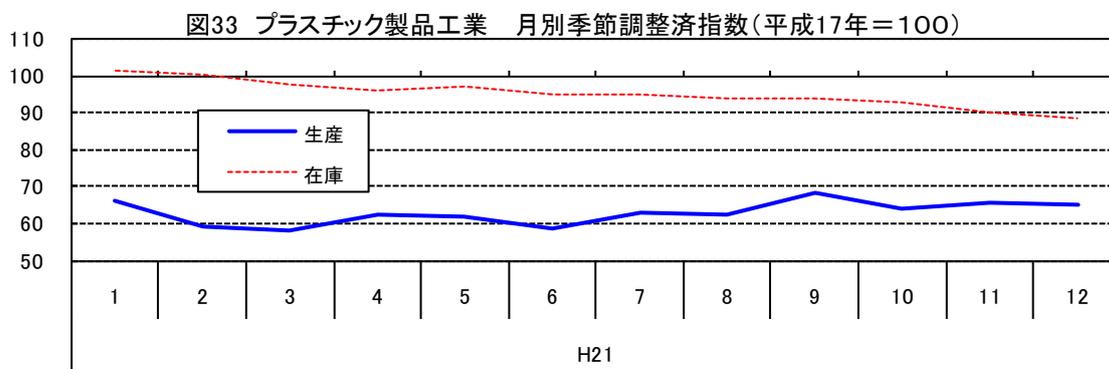
在庫指数は前年末比▲14.3%（寄与度▲1.32）低下の84.9となり、2年ぶりに低下した。これは6品目中、1品目（建材・強化製品）が増加したものの、5品目（日用品雑貨など）が減少したことによる（表9）。

表9 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成17年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
プラスチック製品工業	471.9	79.7	62.9	▲21.1	▲0.81	891.3	99.1	84.9	▲14.3	▲1.32
フィルム・シート	27.9	70.4	71.2	▲1.1	0.00	68.5	101.7	91.0	▲10.5	▲0.08
機械器具部品	241.8	72.7	52.4	▲27.9	▲0.50	118.6	86.5	58.2	▲32.7	▲0.35
容器	21.0	96.2	87.6	▲8.9	▲0.02	70.1	121.1	115.9	▲4.3	▲0.04
日用品雑貨	54.5	96.9	88.2	▲9.0	▲0.05	325.4	111.8	96.1	▲14.0	▲0.53
建材・強化製品	37.5	62.4	50.2	▲19.6	▲0.05	18.4	35.0	36.8	5.1	0.00
その他プラスチック製品	89.2	94.5	72.5	▲23.3	▲0.20	290.3	88.1	77.4	▲12.1	▲0.32

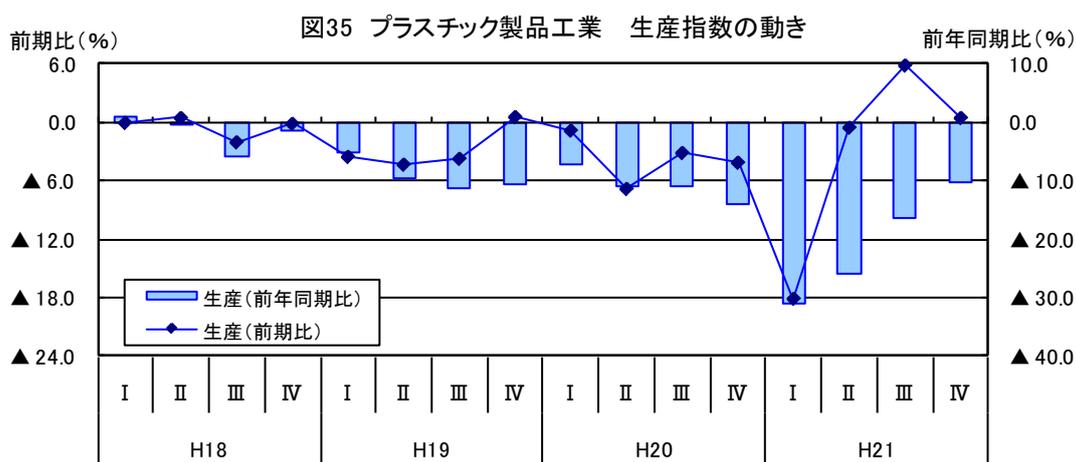
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲18.1%、Ⅱ期▲0.5%と平成20年Ⅰ期以降6期連続で低下したが、Ⅲ期5.9%、Ⅳ期0.5%と2期連続で上昇した。

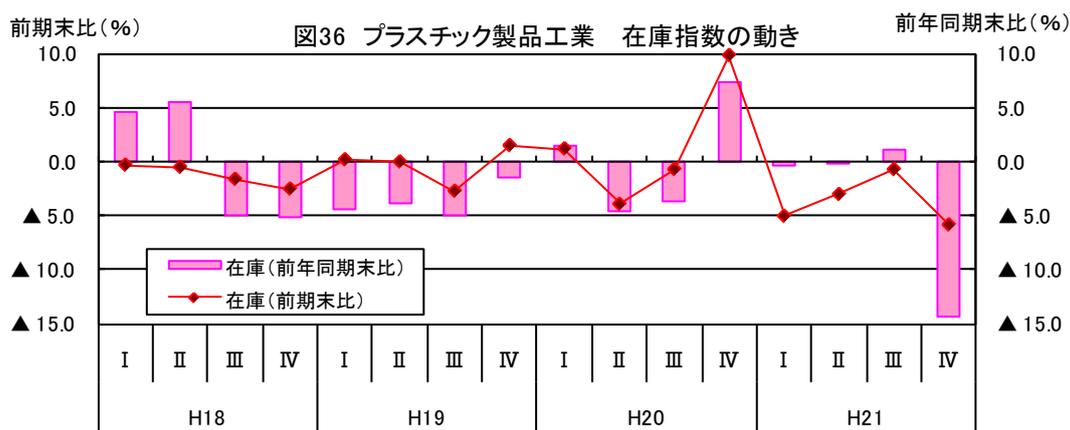
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲30.9%、Ⅱ期▲25.9%、Ⅲ期▲16.5%、Ⅳ期▲10.1%と平成18年Ⅱ期以降15期連続で前年を下回った（図35）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲5.0%、Ⅱ期▲3.0%、Ⅲ期▲0.7%、Ⅳ期▲5.8%と4期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲0.4%、Ⅱ期▲0.1%と2期連続で前年を下回ったが、Ⅲ期は1.2%と前年を上回り、Ⅳ期では▲14.3%と再び前年を下回った（図36）。



(10) パルプ・紙・紙加工品工業

① 概況

生産指数は前年比▲19.1%（寄与度▲0.88）低下の78.5となり、3年連続で低下した（統計表第1表）。これは5品目すべて（パルプ、紙、板紙、ダンボール・箱・袋、その他紙製品）が減少したことによる（表10）。

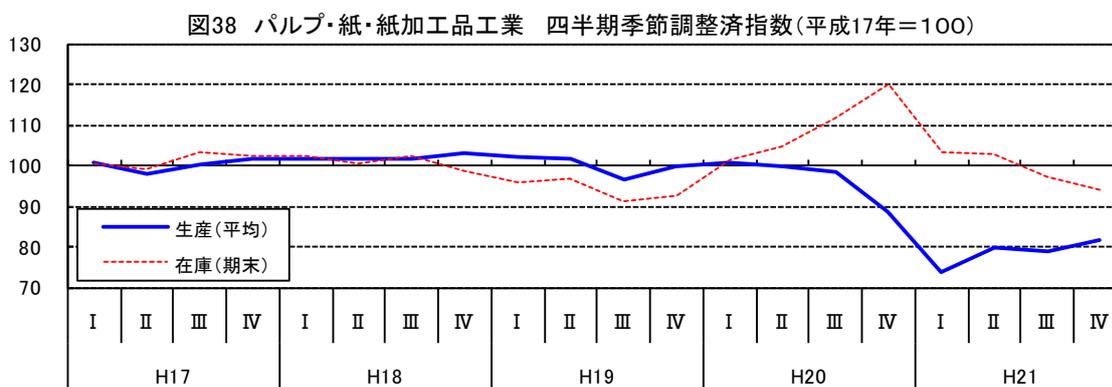
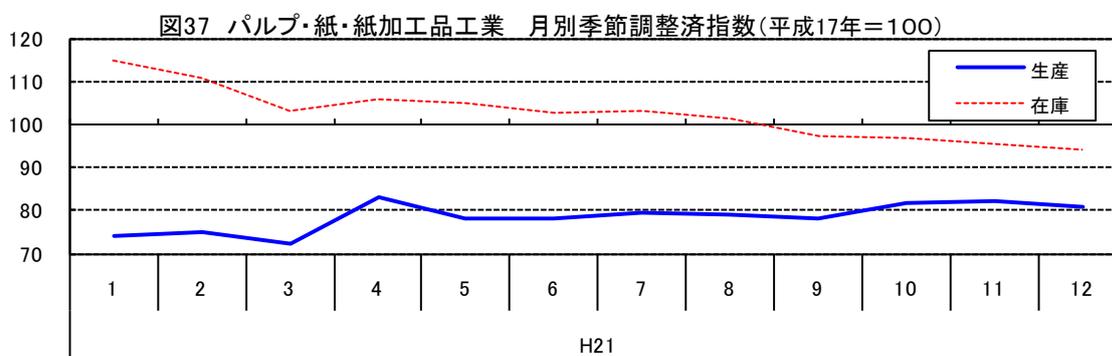
在庫指数は前年末比▲22.0%（寄与度▲2.52）低下の94.2となり、2年ぶりに低下した。これは5品目中、2品目（その他紙製品など）が増加したものの、3品目（紙など）が減少したことによる（表10）。

表10 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
パルプ・紙・紙加工品工業	467.6	97.0	78.5	▲19.1	▲0.88	911.5	120.7	94.2	▲22.0	▲2.52
パルプ	40.5	96.6	69.8	▲27.7	▲0.11	10.9	82.5	3.0	▲96.4	▲0.09
紙	185.6	95.5	63.4	▲33.6	▲0.61	632.4	117.4	79.4	▲32.4	▲2.50
板紙	33.9	104.4	83.4	▲20.1	▲0.07	128.3	120.2	112.6	▲6.3	▲0.10
ダンボール・箱・袋	185.3	97.3	92.7	▲4.7	▲0.09	93.9	107.3	107.4	0.1	0.00
その他紙製品	22.3	97.5	93.4	▲4.2	▲0.01	46.0	204.5	242.0	18.3	0.18

平成17年=100

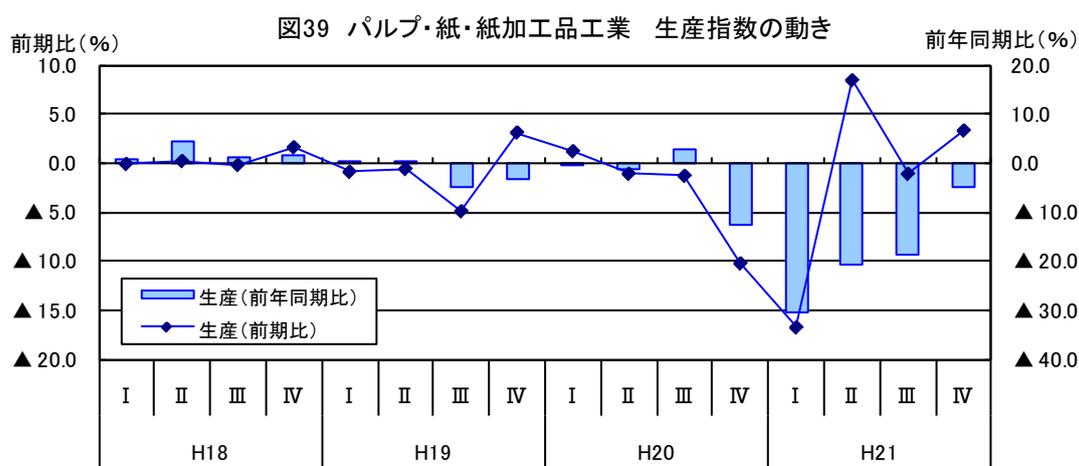
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、I期は▲16.7%と平成20年II期以降4期連続で低下したが、II期は8.4%と上昇し、III期では▲1.1%と再び低下したが、IV期では3.3%と再び上昇した。

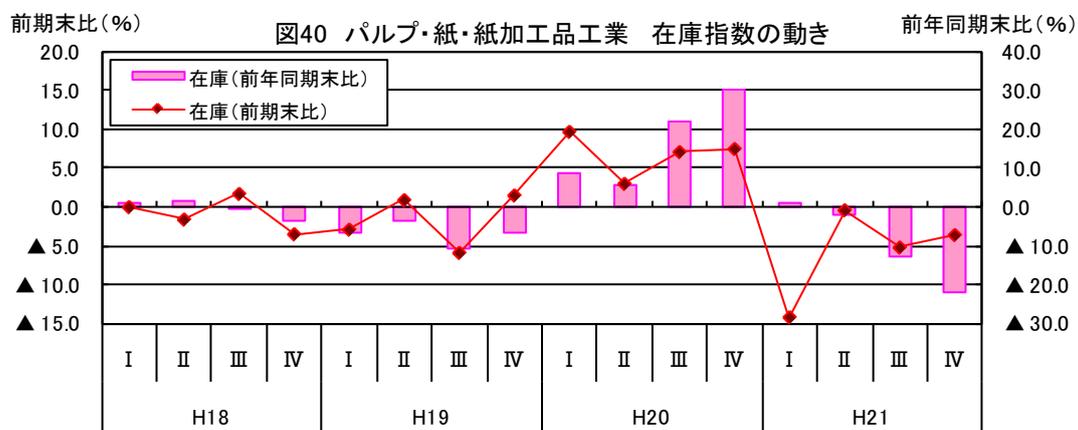
また、前年同期比（原指数）は、I期▲30.6%、II期▲20.7%、III期▲18.8%、IV期▲5.1%と平成20年IV期以降5期連続で前年を下回った（図39）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、I期▲14.2%、II期▲0.4%、III期▲5.2%、IV期▲3.6%と4期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、I期は1.2%と平成20年I期以降5期連続で前年を上回ったが、II期▲2.3%、III期▲13.0%、IV期▲22.0%と3期連続で前年を下回った（図40）。



(11) 繊維工業

① 概況

生産指数は前年比▲26.0%（寄与度▲0.78）低下の60.9となり、平成17年以降5年連続で低下した（統計表第1表）。これは5品目すべて（化繊・紡績、織物、染色整理、衣類、その他繊維製品）が減少したことによる（表11）。

在庫指数は前年末比▲20.8%（寄与度▲0.91）低下の63.4となり、2年連続で低下した。これは5品目中、1品目（織物）が増加したものの、4品目（化繊・紡績など）が減少したことによる（表11）。

表11 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
繊維工業	358.4	82.3	60.9	▲26.0	▲0.78	521.2	80.1	63.4	▲20.8	▲0.91
化繊・紡績	135.7	75.3	56.0	▲25.6	▲0.27	239.3	92.7	69.1	▲25.5	▲0.59
織物	84.6	90.0	69.7	▲22.6	▲0.18	35.7	66.6	78.4	17.7	0.04
染色整理	47.1	87.8	62.5	▲28.8	▲0.12	49.3	80.7	60.4	▲25.2	▲0.10
衣類	25.0	84.4	72.4	▲14.2	▲0.03	59.6	139.4	120.0	▲13.9	▲0.12
その他繊維製品	66.0	81.8	54.2	▲33.7	▲0.19	137.3	35.6	26.2	▲26.4	▲0.13

平成17年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図41 繊維工業 月別季節調整済指数(平成17年=100)

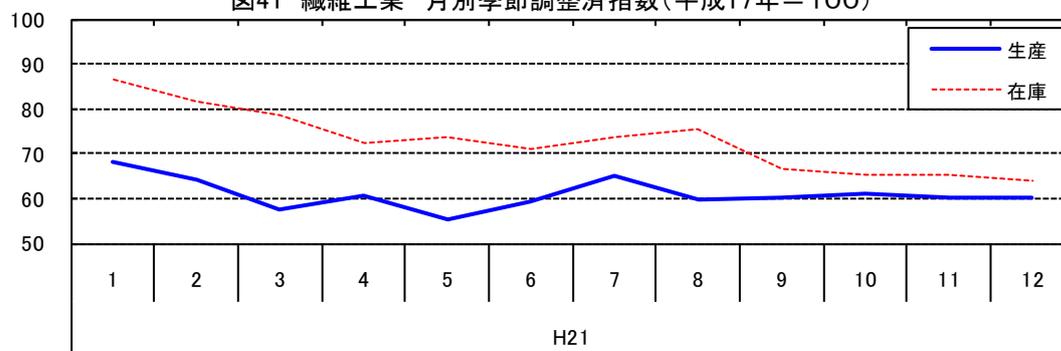
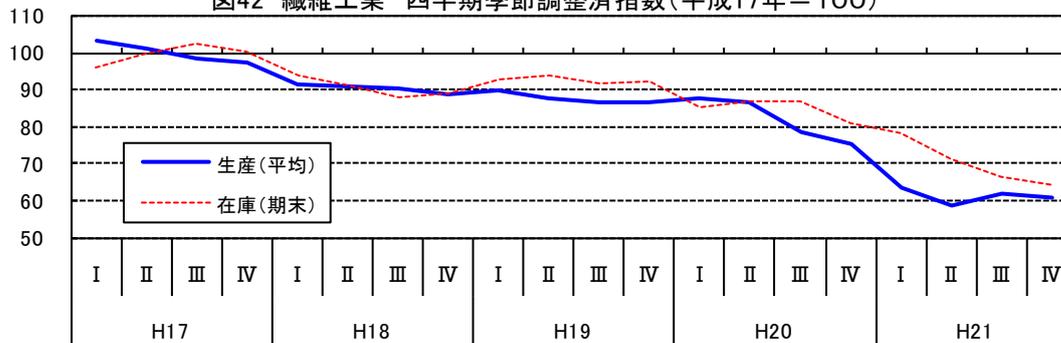


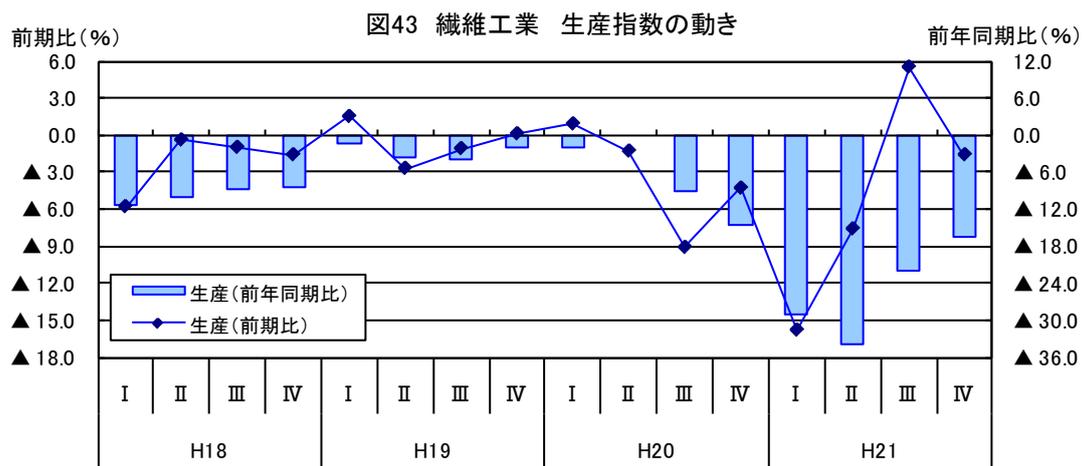
図42 繊維工業 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲15.8%、Ⅱ期▲7.6%と平成20年Ⅱ期以降5期連続で低下したが、Ⅲ期は5.5%と上昇し、Ⅳ期では▲1.6%と再び低下した。

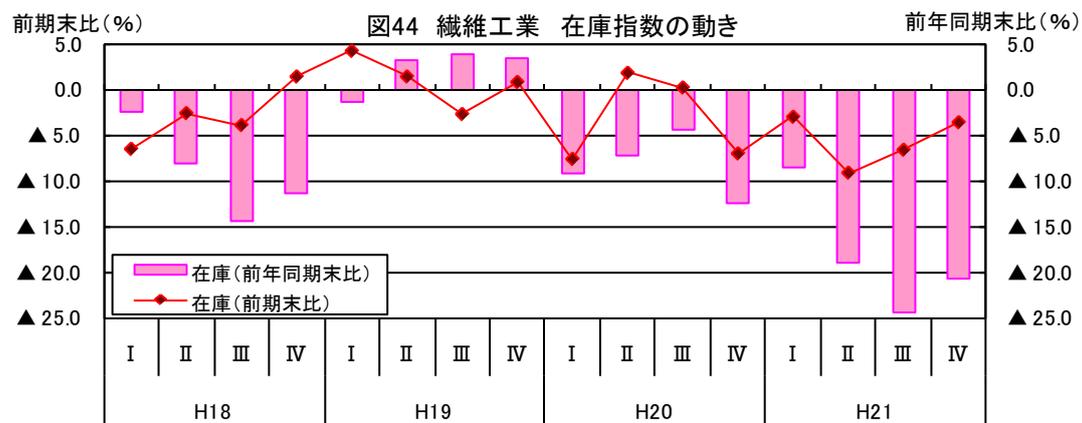
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲29.0%、Ⅱ期▲34.0%、Ⅲ期▲22.1%、Ⅳ期▲16.6%と平成20年Ⅲ期以降6期連続で前年を下回った（図43）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲3.0%、Ⅱ期▲9.1%、Ⅲ期▲6.6%、Ⅳ期▲3.6%と平成20年Ⅳ期以降5期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲8.5%、Ⅱ期▲18.9%、Ⅲ期▲24.4%、Ⅳ期▲20.8%と平成20年Ⅰ期以降8期連続で前年を下回った（図44）。



(12) 食料品工業

① 概況

生産指数は前年比▲4.9%（寄与度▲0.14）低下の97.8となり、2年連続で低下した（統計表第1表）。これは8品目中、3品目（畜産製品、惣菜、その他食料品工業製品）が増加したものの、5品目（冷凍調理品、乳製品、調味料、飲料、その他食料品）が減少したことによる（表12）。

在庫指数は前年末比5.7%（寄与度0.37）上昇の78.0となり、平成15年以降初めて上昇した。これは8品目中4品目（冷凍調理品など）が減少したものの、ウェイトが高く影響の大きい飲料を含む4品目（飲料など）が増加したことによる（表12）。

表12 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
食料品工業	265.3	102.8	97.8	▲4.9	▲0.14	848.1	73.8	78.0	5.7	0.37
冷凍調理品	26.0	133.1	125.8	▲5.5	▲0.02	11.0	118.9	69.6	▲41.5	▲0.06
乳製品	28.8	117.6	103.5	▲12.0	▲0.04	28.7	91.8	88.6	▲3.5	▲0.01
調味料	15.1	91.5	91.3	▲0.2	▲0.00	34.2	86.5	100.0	15.6	0.05
畜産製品	30.1	96.1	97.5	1.5	0.00	7.1	54.8	52.5	▲4.2	▲0.00
惣菜	14.3	94.1	97.1	3.2	0.00	3.3	86.9	145.8	67.8	0.02
飲料	111.1	101.9	96.7	▲5.1	▲0.06	754.2	71.5	76.5	7.0	0.39
その他食料品工業製品	0.5	99.0	102.6	3.6	0.00	1.8	105.6	132.6	25.6	0.01
その他食料品	39.4	87.0	81.5	▲6.3	▲0.02	7.8	112.4	75.4	▲32.9	▲0.03

寄与度は鉱工業に対する数値

図45 食料品工業 月別季節調整済指数(平成17年=100)

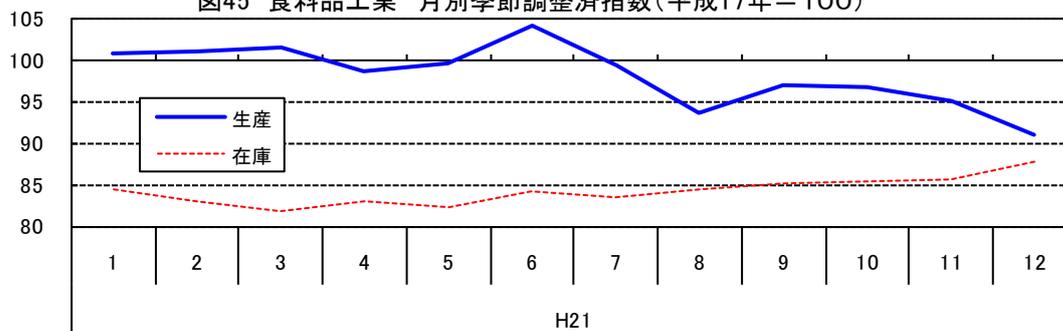
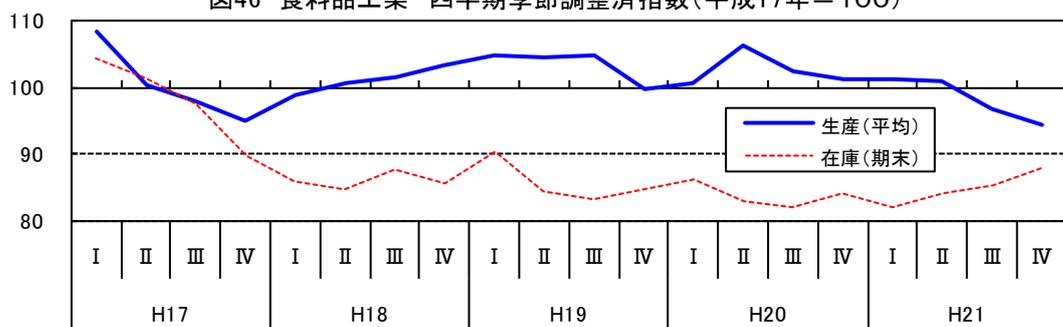


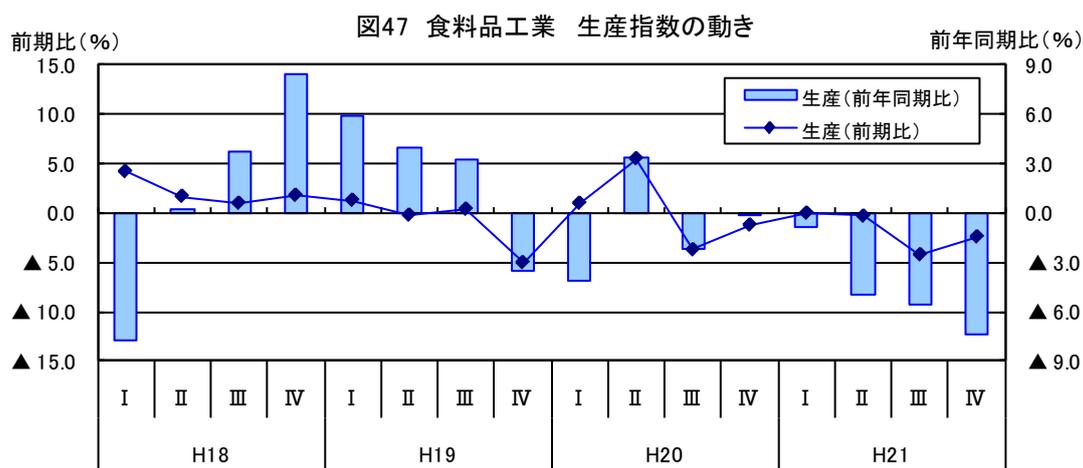
図46 食料品工業 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は0.0%で横ばいとなったが、Ⅱ期▲0.3%、Ⅲ期▲4.2%、Ⅳ期▲2.4%と3期連続で低下した。

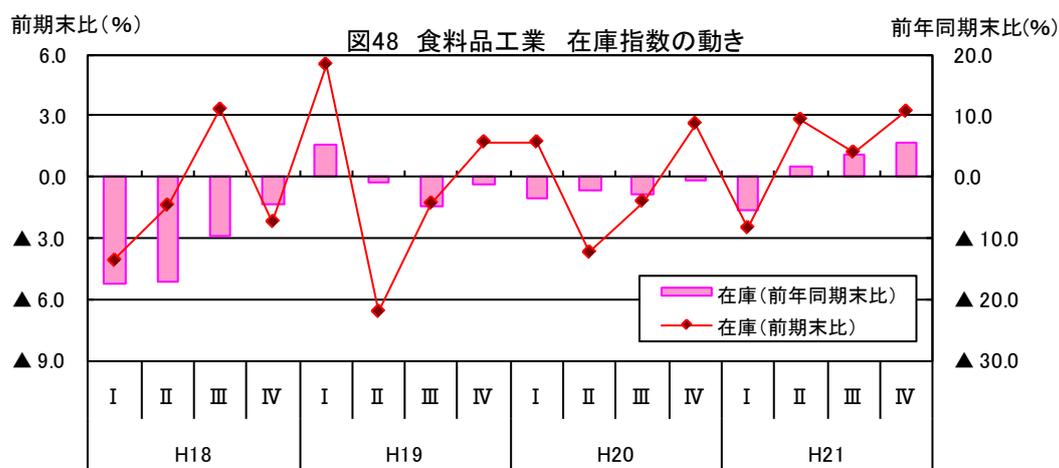
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲0.8%、Ⅱ期▲5.0%、Ⅲ期▲5.6%、Ⅳ期▲7.4%と平成20年Ⅲ期以降6期連続で前年を下回った（図47）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲2.5%と低下したが、Ⅱ期2.8%、Ⅲ期1.2%、Ⅳ期3.2%と3期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期は▲5.5%と平成19年Ⅱ期以降8期連続で前年を下回ったが、Ⅱ期1.7%、Ⅲ期3.5%、Ⅳ期5.7%と3期連続で前年を上回った（図48）。



(13) その他工業

① 概況

生産指数は前年比▲16.0%（寄与度▲0.84）低下の76.9となり、平成16年以降6年連続で低下した（統計表第1表）。これは5品目中、2品目（印刷業、精密機械工業）が増加したものの、3品目（ゴム製品工業、木材・木製品工業、その他製品工業）が減少したことによる（表13）。

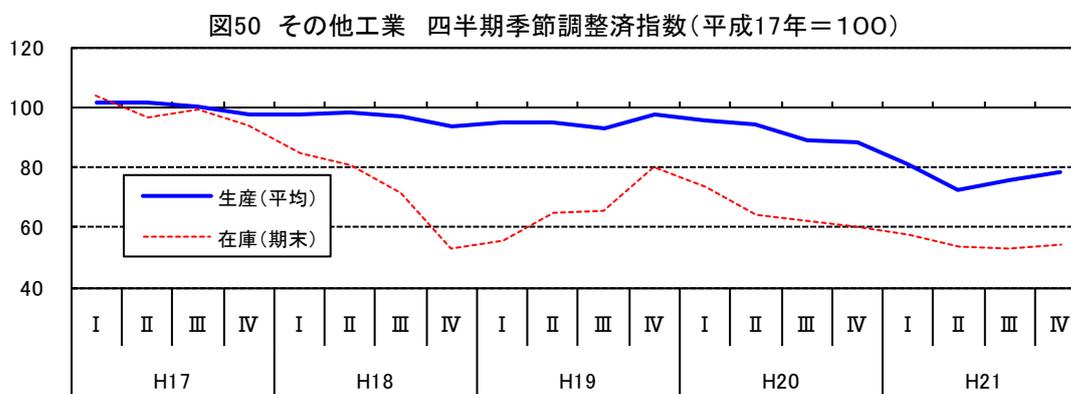
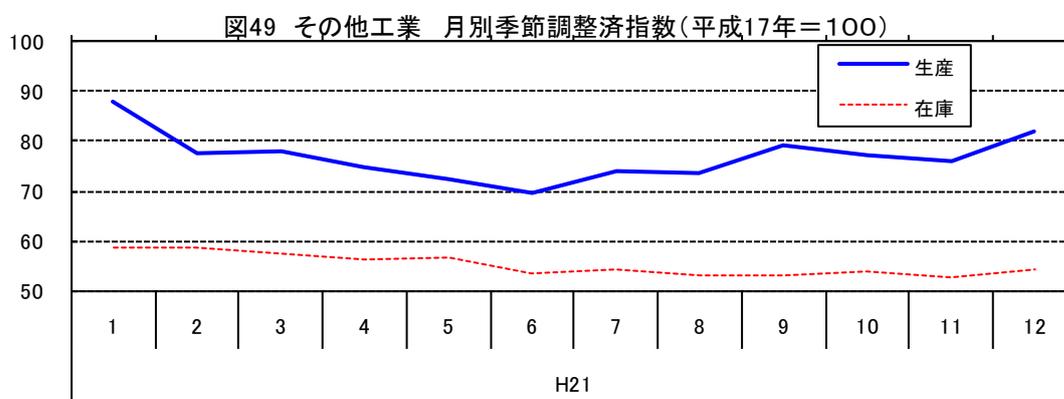
在庫指数は前年末比▲7.7%（寄与度▲0.19）低下の52.8となり、2年連続で低下した。これは4品目中、1品目（木材・木製品工業）が増加したものの、3品目（精密機械工業など）が減少したことによる（表13）。

表13 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成20年	平成21年				平成20年	平成21年		
その他工業	557.3	91.6	76.9	▲16.0	▲0.84	412.8	57.2	52.8	▲7.7	▲0.19
ゴム製品工業	43.2	93.8	62.8	▲33.0	▲0.14	31.9	111.8	82.6	▲26.1	▲0.10
印刷業	107.9	101.8	102.9	1.1	0.01	-	-	-	-	-
木材・木製品工業	78.3	61.4	45.6	▲25.7	▲0.13	270.4	35.6	41.8	17.4	0.17
精密機械工業	11.7	242.4	260.3	7.4	0.02	38.6	188.2	137.4	▲27.0	▲0.20
その他製品工業	316.2	89.8	70.9	▲21.0	▲0.61	71.9	43.7	35.5	▲18.8	▲0.06

平成17年=100

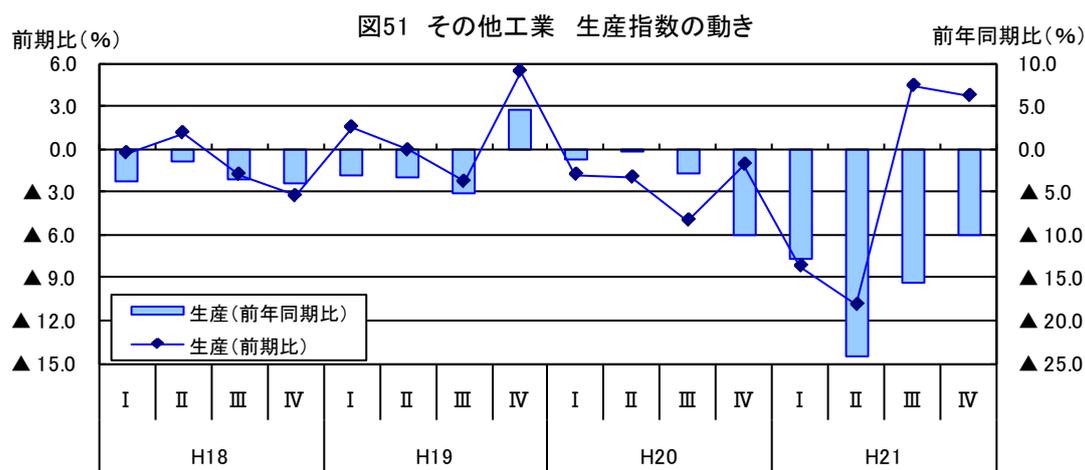
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲8.2%、Ⅱ期▲10.9%と平成20年Ⅰ期以降6期連続で低下したが、Ⅲ期4.4%、Ⅳ期3.7%と2期連続で上昇した。

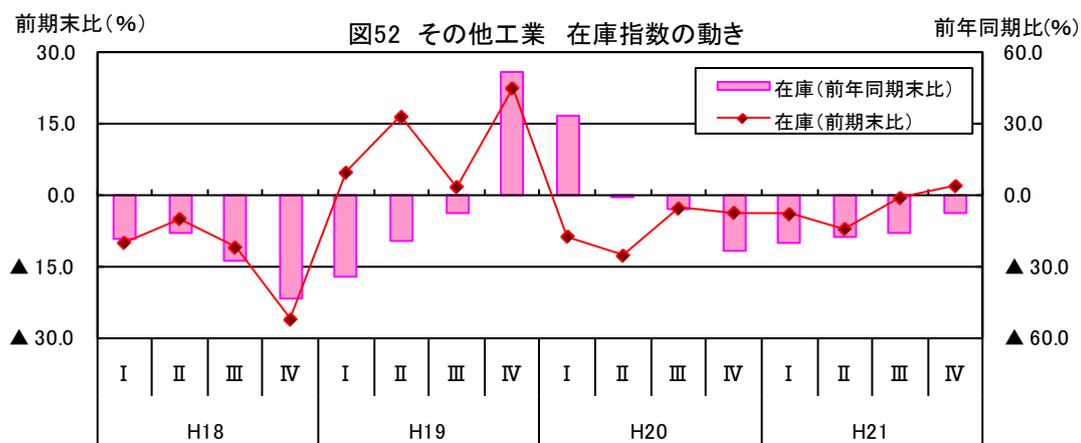
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲12.9%、Ⅱ期▲24.3%、Ⅲ期▲15.7%、Ⅳ期▲10.1%と平成20年Ⅰ期以降8期連続で前年を下回った（図51）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲4.0%、Ⅱ期▲7.1%、Ⅲ期▲0.6%と平成20年Ⅰ期以降7期連続で低下したが、Ⅳ期は1.9%と上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲20.3%、Ⅱ期▲17.8%、Ⅲ期▲16.0%、Ⅳ期▲7.7%と平成20年Ⅱ期以降7期連続で前年を下回った（図52）。



3 財用途別動向

注：財用途別分類及び定義については P3「②特殊分類(財別)」を、品目については P16～17「業種別・財別品目一覧」を参照。

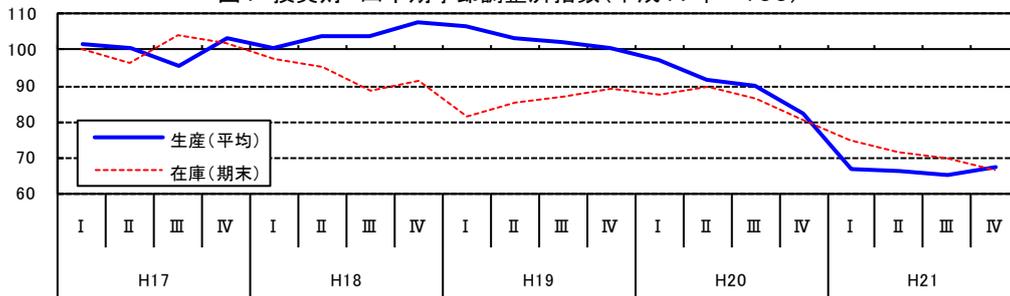
(1) 最終需要財

生産は前年比▲11.2%低下の 93.4 となり、在庫は前年末比 13.6%上昇の 108.6 となった(統計表第 2 表・第 11 表・第 13 表)。

① 投資財

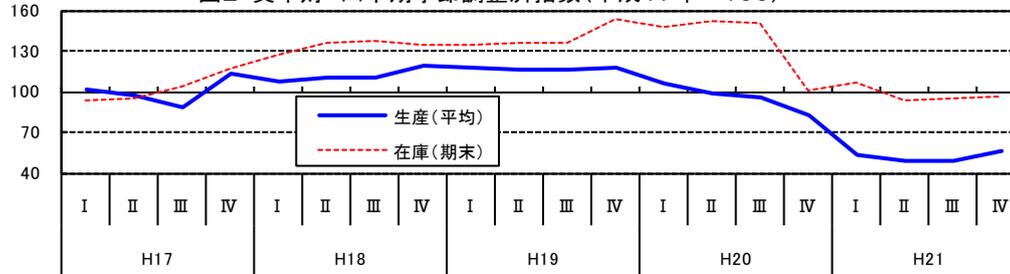
投資財全体では、生産が前年比(原指数)▲27.0%低下の 66.0 となり、在庫が前年末比▲17.1%低下の 65.4 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I 期▲19.2%、II 期▲0.6%、III 期▲1.4%と平成 19 年 I 期以降 11 期連続で低下したが、IV 期は 2.9%と上昇した。(図 1、統計表第 2 表・第 11 表・第 12 表・第 13 表)。

図1 投資財 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



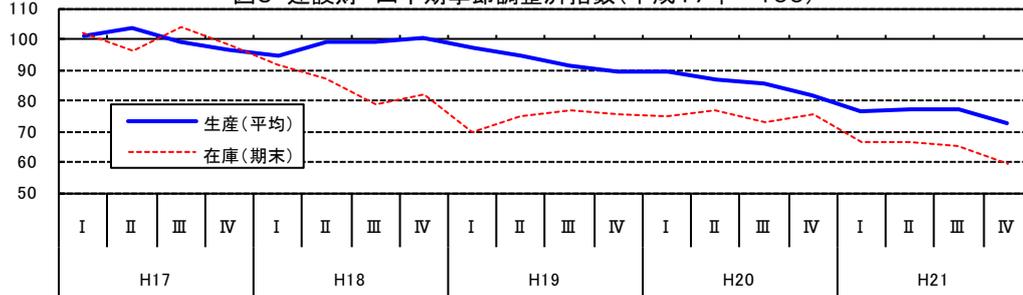
投資財のうち**資本財**は、生産が前年比▲45.7%低下の 52.3 となり、在庫が前年末比▲4.5%低下の 95.5 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I 期、II 期、III 期と平成 20 年 I 期以降 7 期連続で低下したが、IV 期は上昇した。(図 2)。

図2 資本財 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



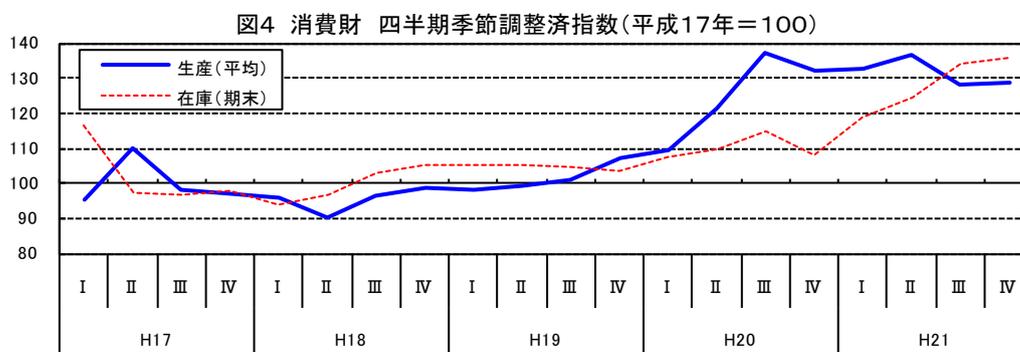
また、**建設財**は、生産が前年比▲12.1%低下の 75.8 となり、在庫が前年末比▲20.7%低下の 59.1 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I 期は低下したが、II 期は上昇し、III 期、IV 期と 2 期連続で低下した。(図 3)。

図3 建設財 四半期季節調整済指数(平成17年=100)

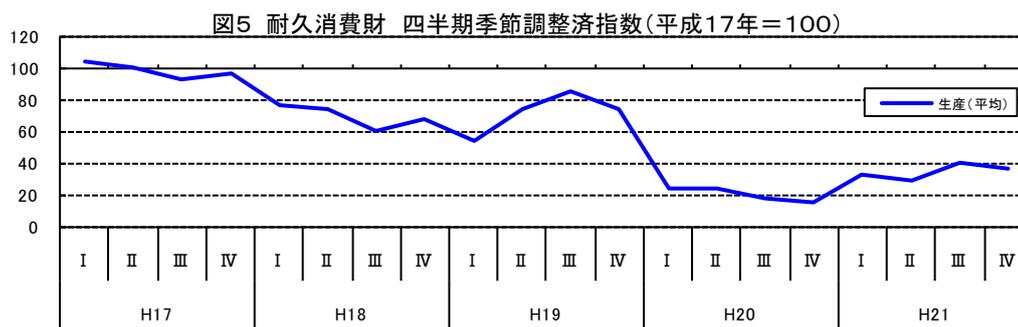


② 消費財

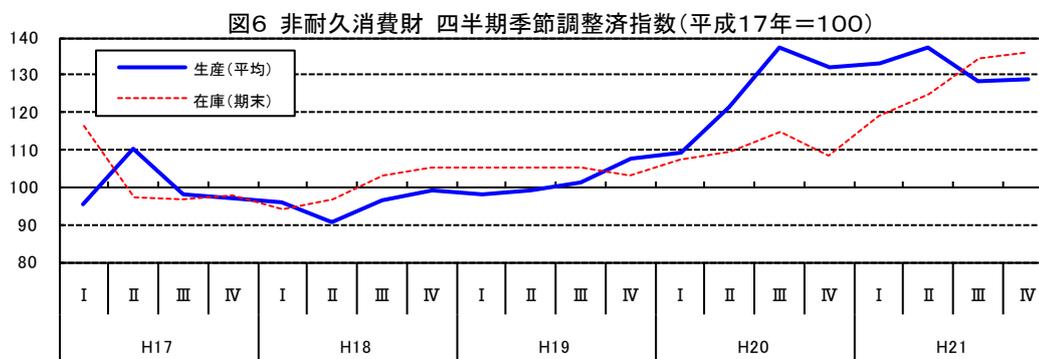
消費財全体では、生産が前年比（原指数）4.5%上昇の131.5となり、在庫が前年末比26.0%上昇の131.7となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、Ⅰ期0.8%、Ⅱ期2.9%と2期連続で上昇したが、Ⅲ期は▲6.5%と低下し、Ⅳ期では0.6%と再び上昇した（図4、統計表第2表・第11表・第12表・第13表）。



消費財のうち**耐久消費財**は、生産が前年比66.7%上昇の34.5となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、Ⅰ期は上昇したが、Ⅱ期は低下し、Ⅲ期では再び上昇したが、Ⅳ期では再び低下した。（図5）

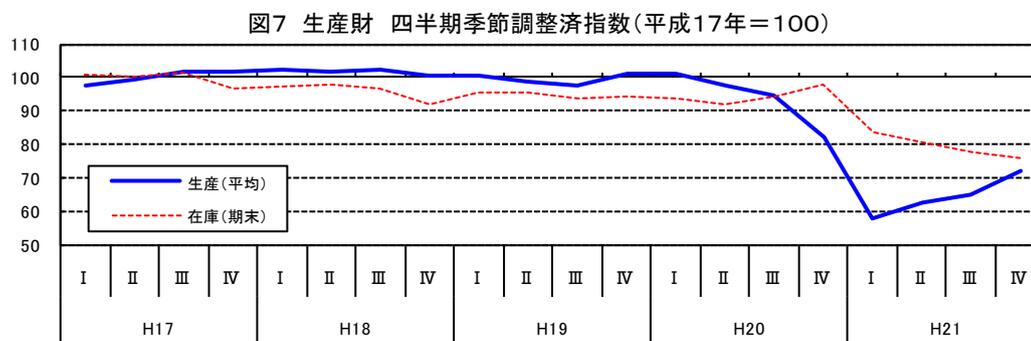


非耐久消費財は、生産が前年比4.5%上昇の131.6となり、在庫が前年末比26.0%上昇の131.7となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、Ⅰ期、Ⅱ期と2期連続で上昇したが、Ⅲ期は低下し、Ⅳ期では再び上昇した（図6）。



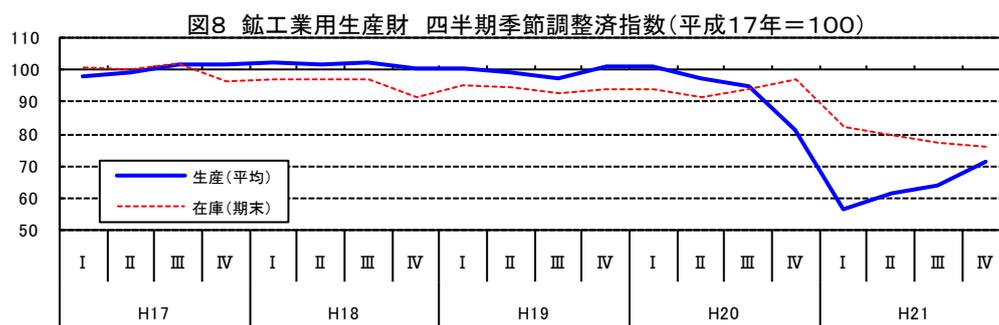
(2) 生産財

生産財全体では、生産が前年比（原指数）▲31.1%低下の 64.7 となり、在庫が前年未
比▲21.2%低下の 75.9 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I 期
は▲29.5%と平成 20 年 I 期以降 5 期連続で低下したが、II 期 8.3%、III 期 3.7%、IV 期
11.1%と 3 期連続で上昇した（図 7、統計表第 2 表・第 11 表・第 12 表・第 13 表）。



① 鉱工業用生産財

生産財のうち鉱工業用生産財は、生産が前年比▲31.9%低下の 63.7 となり、在庫が前
年未比▲21.0%低下の 75.4 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、
I 期は低下したが、II 期、III 期、IV 期は上昇した（図 8）。



② その他用生産財

また、その他用生産財は、生産が前年比▲11.0%低下の 90.6 となり、在庫が前年未比
▲23.6%低下の 86.1 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I 期は
低下し、II 期は上昇したが、III 期では再び低下し、IV 期では再び上昇した（図 9）。

